

第 2 学年

シラバス

2014

*Syllabus*

日本歯科大学新潟生命歯学部

## 基本理念

本学は、高等教育機関として、広く知識を授けると共に、深く歯・顎・口腔の医学を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、もって人類の文化の発展と福祉に寄与し、国民の健康な生活に貢献することを使命とする（学則第1条）。

## 教育の目標

- 1) 幅広い教養と倫理観を持った医療人を育成する。
- 2) 問題を発見し解決する能力を持った医療人を育成する。
- 3) コミュニケーション能力のすぐれた医療人を育成する。
- 4) 歯科医学の最新の知識を生涯学び続ける能力を持った医療人を育成する。
- 5) 根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成する。
- 6) 専門に偏らない幅広い知識と技能を有する医療人を育成する。
- 7) 僻地医療や高齢者の介護福祉など地域医療に貢献できる医療人を育成する。
- 8) 口腔疾患を全身的関連で把握することのできる医療人を育成する。
- 9) 健康増進と疾病の予防に貢献できる医療人を育成する。
- 10) 世界をリードする国際性を有する医療人を育成する。

# シラバス

## 1. シラバスとは

履修する上での必要な要件を詳細に示した授業計画をいう。

## 2. シラバスの役割

- 1) 授業科目についての詳細な内容と計画が示されている。
- 2) 学生の教室外における予習復習の指針となる。
- 3) 試験に際しては、試験範囲等勉強の指針となる。
- 4) 学生に履修科目選択のための情報を提供する。

## 3. シラバスの構成

### 1) 一般目標

学習により期待される成果を示す。

### 2) 行動目標

学習者の到達すべき行動目標を示す。

### 3) 学習方略

目標に到達するために必要な学習方法を示す。

### 4) 評価方法

目標まで達成されたかどうかを判定するための評価方法を示す。

### 5) 学習内容

授業によって学生が何を学習できるかを示す。

## 授業科目一覧表

No.	科 目	前 期	後 期
1	臨 床 心 理 学	※ ※ ※	
2	原 子 核 と 放 射 線	※ ※ ※	
3	物 質 の 構 造 と 反 応	※ ※ ※	
4	生 命 の 連 続 性 と 遺 伝 子	※ ※ ※	
5	実 用 医 学 英 語		※ ※ ※
6	英 語 会 話	※ ※ ※	※ ※ ※
7	社 会 歯 科 入 門		※ ※ ※
8	健 康 科 学	※ ※ ※	
9	基 礎 口 腔 保 健 学		※ ※ ※
10	生 化 学	※ ※ ※	
11	口 腔 生 化 学		※ ※ ※
12	解 剖 学	※ ※ ※	※ ※ ※
13	解 剖 学 実 習		※ ※ ※
14	口 腔 解 剖 学	※ ※ ※	
15	口 腔 解 剖 学 実 習	※ ※ ※	
16	発 生 学	※ ※ ※	
17	人 類 学	※ ※ ※	
18	組 織 学	※ ※ ※	
19	口 腔 組 織 学		※ ※ ※
20	生 理 学	※ ※ ※	※ ※ ※
21	感 染 微 生 物 学	※ ※ ※	※ ※ ※
22	病 理 学		※ ※ ※
23	薬 物 療 法 学	※ ※ ※	
24	歯 科 薬 物 療 法 学		※ ※ ※
25	基 礎 歯 科 医 学 補 講 I・II	※ ※ ※	
26	歯 科 理 工 学	※ ※ ※	※ ※ ※
27	歯 科 理 工 学 実 習		※ ※ ※
28	専 門 歯 科 治 療 概 論		※ ※ ※
29	医 療 統 計 学		※ ※ ※
30	生 体 機 能 調 節 学	※ ※ ※	
31	材 料 科 学	※ ※ ※	
32	顎 口 腔 運 動 制 御 学		※ ※ ※
33	唾 液 と 唾 液 腺		※ ※ ※
34	食 育 ・ 食 術	※ ※ ※	
科 目 総 数		21	18

## 新潟生命歯学部 授業科目等

授 業 料 目	単位数	計
医学概論・歯科医学史	1.5	1.5
早期臨床実習Ⅰ・Ⅱ	1.0	1.0
臨床から振り返る基礎学	1.5	1.5
ま と め	1.5	1.5
プロフェッション	1.0	1.0
自由 科 目	社 会 学	3
	経 済 学	
	ドイツの生活と情報	
青 年 心 理 学	1.5	3
臨 床 心 理 学	1.5	
原子核と放射線	1.5	4.5
物質の構造と反応	1.5	
生命の連続性と遺伝子	1.5	
熱と物質の物理	3	3
熱と物質の物理(補習と演習)	0	
基 礎 科 学	0	3
生体物質の化学	3	
生体物質の化学(補習と演習)	0	
基 礎 科 学	0	3
細胞の生物学	3	
細胞の生物学(補習と演習)	0	3
基 礎 科 学	0	3
自然現象の数学	3	
生 活 と 環 境	1.5	1.5
自 然 科 学 実 習	2	2
国 語 表 現 法	3	3
総 合 英 語	1.5	3.75
実用医学英語	0.75	
英 語 会 話	1.5	1.5
基 礎 独 語	1.5	
情報科学の実習	1	1

授 業 料 目	単位数	計
医 療 倫 理	0.75	0.75
医 療 法 律 学	1.5	1.5
社 会 歯 科 入 門	0.75	0.75
歯科医療コミュニケーション実習	0.8	0.8
ファンダメンタルスキル実習Ⅰ・Ⅱ	0.75	0.75
健 康 科 学	1.5	1.5
歯 科 法 医 学	0.75	0.75
医療情報・医療管理学	0.75	0.75
基礎口腔保健学	1.5	3.5
地域口腔保健学	1.5	
口腔保健学実習	0.5	
生 化 学	1.5	3.5
口 腔 生 化 学	1.5	
分子生命科学実習	0.5	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	9.75
解 剖 学	3	
解 剖 学 実 習	2	
口 腔 解 剖 学	1.5	
口 腔 解 剖 学 実 習	1	
発 生 学	0.75	
人 類 学	1.5	
基礎歯科医学補講Ⅱ	0	
組 織 学	1.5	
口 腔 組 織 学	1.5	4
組織・口腔組織学実習	1	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	4
生 理 学	3	
生 理 学 実 習	1	
基礎歯科医学補講Ⅱ	0	
感 染 微 生 物 学	3	5.5
生 体 防 御 学	1.5	
感染微生物学・生体防御学実習	1	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	4
病 理 学	1.5	
口 腔 病 理 学	1.5	
病理診断学実習	1	
薬 物 療 法 学	1.5	4
歯 科 薬 物 療 法 学	1.5	
歯 科 薬 物 療 法 学 実 習	1	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	
歯 科 薬 剤 学	1.5	1.5
歯 科 理 工 学	4.5	5.5
歯 科 理 工 学 実 習	1	

授 業 料 目	単位数	計
ヒトと放射線	1.5	3
画像検査の基礎と応用	1.5	
歯科麻酔と救急処置	3	3
口腔顎顔面外科手術学	1.5	3.1
口腔外科学・全身管理学実習	1.6	
保存修復学	3	4.6
保存修復学実習	1.6	
歯冠鑄造修復学	1.5	1.5
歯内療法学	3	4.6
歯内療法学実習	1.6	
歯周疾患治療学	3	4
歯周疾患治療学実習	1	
顎口腔機能診断学	3	4
顎口腔機能診断学実習	1	
歯科矯正学	3	4
歯科矯正学実習	1	
小児歯科学	3	4
小児歯科学実習	1	
部分床義歯補綴学	3	4.6
部分床義歯補綴学実習	1.6	
全部床義歯補綴学	1.5	3.1
全部床義歯補綴学実習	1.6	
歯冠補綴架工義歯学	1.5	4.7
歯冠補綴架工義歯学実習	3.2	
口腔顎顔面外科学	4.5	6
口腔顎顔面外科診断治療学	1.5	
高齢者歯科学	1.5	1.5
障害者歯科学	0.75	0.75
歯科心身医学	0.75	0.75

授 業 料 目	単位数	計
専門歯科治療概論	1.5	1.5
医療統計学	0.75	0.75
生体機能調節学	1.5	1.5
ヒトの一生	1.5	1.5
材料科学	1.5	1.5
顎口腔運動制御学	0.75	0.75
唾液と唾液腺	0.75	0.75
臨床診査・検査学	1.5	1.5
口腔腫瘍学	1.5	1.5
歯性感染症	0.75	0.75
顎咬合診断・口腔インプラント学	1.5	2.3
口腔インプラント実習	0.8	
歯科医学入門演習	2	4
歯科症候学演習	2	
歯科医のための内科学	3	3
外科学	1.5	1.5
耳鼻咽喉科学	1.5	1.5
食育・食術	0.75	0.75
臨床(病院)実習	10	10
総合試験・CBT	3	3
総合科目①②③	6	6
包括歯科医学	4	4
合 計		199.8

## 第2学年 授業科目 目次

### －前期－

臨床心理学	10
原子核と放射線	12
物質の構造と反応	14
生命の連続性と遺伝子	16
英語会話	18
健康科学	20
生化学	22
解剖学	24
口腔解剖学	26
口腔解剖学実習	28
発生理学	30
人類学	32
組織学	34
生理学	36
感染微生物学	38
薬物療法学	40
基礎歯科医学補講Ⅰ	42
基礎歯科医学補講Ⅱ	44
歯科理工学	46
生体機能調節学	48
材料科学	50
食育・食術	52

### －後期－

実用医学英語	56
英語会話	58
社会歯科入門	60
基礎口腔保健学	62
口腔生化学	64
解剖学	66
解剖学実習	68
口腔組織学	72
生理学	74
感染微生物学	76
病理学	78
歯科薬物療法学	80
歯科理工学	82
歯科理工学実習	84
専門歯科治療概論	86
医療統計学	88
顎口腔運動制御学	90
唾液と唾液腺	92

## 第2学年 前期授業科目 目次

臨床心理学	10
原子核と放射線	12
物質の構造と反応	14
生命の連続性と遺伝子	16
英語会話	18
健康科学	20
生化学	22
解剖学	24
口腔解剖学	26
口腔解剖学実習	28
発生学	30
人類学	32
組織学	34
生理学	36
感染微生物学	38
薬物療法学	40
基礎歯科医学補講Ⅰ	42
基礎歯科医学補講Ⅱ	44
歯科理工学	46
生体機能調節学	48
材料科学	50
食育・食術	52

# 臨床心理学

授業責任者：佐藤 亨

教科書：特になし（自作のプリントを使用）

参考書：臨床心理学概説 田中富士夫編著 北樹出版  
はじめて学ぶ人の臨床心理学 杉原一昭監修 中央法規  
はじめての臨床心理学 森谷寛之編著 北樹出版

## 一般目標：

人が不適応を起こす際の心のあり様を理解できるようになるために、臨床心理学の基礎的な考え方や人の心に関わる様々な現代的な課題を理解する。

## 行動目標：

1. 不適応を起こす心のあり様に関して、意識と無意識、防衛機制などについて説明する。
2. 人間の不適応状態について、学習理論の考え方に基づいて説明する。
3. 不適応を起こした人への対応の基礎として、ロジャーズの6条件について説明する。
4. 性格や心のあり様を調べるための心理査定の方法について、その分類を説明する。
5. 人の心に関わる様々な課題について説明する。

## 学習方略：

講義，実習

## 評価方法：

客観試験，記述試験，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月15日	臨床心理学の歴史	臨床心理学の歴史について	佐藤 亨
2	4月22日	精神力動的考え方Ⅰ	フロイト，意識と無意識，超自我・自我・イド	
3	5月13日	精神力動的考え方Ⅱ	防衛機制，フロイトの治療技法	
4	5月20日	精神力動的考え方Ⅲ	アドラーの考え方，ユングの考え方，フロイトの後継者たち	
5	5月27日	行動論的考え方	パブロフ，スキナー，行動療法，認知療法	
6	6月3日	人間性心理学の考え方	ロジャーズのカウンセリングの6条件	
7	6月10日	人間の発達	エリクソンの発達段階を中心に	
8	6月17日	心理査定Ⅰ	心理査定の様々な方法（知能検査，質問紙法，投影法，描画法）	
9	6月24日	心理査定Ⅱ	エゴグラム（実習）	
10	7月1日	様々な心理的な問題Ⅰ	不登校・引きこもり	
11	7月8日	様々な心理的な問題Ⅱ	非行・いじめ	
12	7月15日	様々な心理的な問題Ⅲ	神経症・うつ	
13	7月17日	心理療法Ⅰ	心理療法の基礎	
14	8月26日	心理療法Ⅱ	様々な心理療法	
15	9月2日	まとめ	人と関わる仕事で大切なこと	
16				

# 原子核と放射線

授業責任者：山下陽介

教科書：医歯系の物理学・村田浩他著・東京教学社

参考書：量子力学・並木美喜雄・岩波新書

電子と原子核の発見・S.ワインバーグ・ちくま学芸文庫

クォーク・南部陽一郎・講談社ブルーバックス

## 一般目標：

歯科医師にとって必要な放射線学やその他の現代医学の物理的基礎を理解するために、電磁気学と原子、原子核物理学についての考え方を習得する。

## 行動目標：

1. 放射線の発見・歴史を説明する。
2. 放射線の医学への利用について説明する。
3. 電磁場の法則を記述する。
4. 電磁気学の医学への応用を記述する。
5. 現代物理学の成立過程を説明する。
6. 物質の波動性、光の粒子性を説明する。
7. 量子力学の波動方程式を説明する。
8. 原子と原子核の構造を説明する。
9. X線及び放射線の発生機構を説明する。
10. X線及び放射線と物質との相互作用を記述する。
11. 放射線の線量を説明する。

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

中間試験，レポート，期末試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者	
1	4月11日	放射線の基礎	放射線を知るために必要となる、電磁気現象を理解するための数学表現について学ぶ。	山下 陽介	
2	4月18日	現代物理の導入(1)	放射線の発見・歴史と現代の素粒子物理学について学ぶ。	小野 裕明	
3	4月25日	現代物理の導入(2)	放射線の医学利用への展開について学ぶ。		
4	5月9日	電磁波	電場、磁場の示す電磁気現象からマクスウェル方程式を求め、放射線の示す現象の基礎となる電磁波の存在を導き出す。	山下 陽介	
5	5月16日	熱放射と光子	熱放射の電磁波のスペクトル分布や、光電効果などから光子の考え方を学ぶ。		
6	5月23日	電子と原子構造	電子と原子核から構成される原子構造と周期律について理解する。		
7	5月30日	物質の波動性	電子などの粒子が示す波動性と不確定性原理の考え方を学ぶ。		
8	6月6日	中間試験	試験問題を解く。		
9	6月20日	ミクロな世界	ビデオ教材により、ミクロの世界の現象について理解する。		
10	6月27日	原子核構造	原子を構成している原子核の構造について学ぶ。		
11	7月4日	核反応とNMR	核反応や核磁気共鳴などの現象について学び、その医学への応用について理解する。		
12	7月11日	X線	X線の発生機構とそのスペクトル及び物質との相互作用の素過程について学ぶ。		
13	7月18日	放射線(1)	原子核崩壊の法則と崩壊によって放出される放射線と物質との相互作用について学ぶ。		
14	8月29日	放射線(2)	放射線の測定方法、放射能の強さ及び放射線の吸収線量と照射線量について学ぶ。		
15	9月5日	問題演習	原子核と放射線の演習問題を解く。		
16					

# 物質の構造と反応

授業責任者：種村 潔

教科書：指定なし

参考書：ベーシック有機化学・山口良平，山本行男，田村 類著・化学同人

## 一般目標：

歯科医学を学ぶ上で重要な有機化学の知識を修得するために、「生体物質の化学」で学んだ事柄をもとにして、有機化合物の構造及び反応形式について理解を深める。

## 行動目標：

1. 脂肪族化合物の性質と反応を説明する。
2. 芳香族化合物の性質と反応を説明する。
3. 有機電子論を用いて有機化学反応の仕組みを説明する。
4. ラジカル反応，重合開始剤，重合禁止剤を説明する。
5. 合成高分子の合成反応の種類と仕組みを列挙する。
6. 生体に関連する有機化合物の構造と性質を説明する。
7. 1次反応，2次反応，半減期，活性化エネルギーを説明する。
8. 水素原子・水素分子の構造と軌道について説明する。

## 学習方略：

講義と問題演習

## 評価方法：

筆記試験，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月10日	アルカン	メタンの塩素化を例としてラジカル反応を理解する。	種村 潔
2	4月17日	アルケン	アルケンの付加反応, 酸化反応, 重合反応を学ぶ。	
3	4月24日	アルキン	三重結合への付加反応とアセチリドの生成を学ぶ。	
4	5月8日	芳香族性(1)	ヒュッケル則を学び環状共役化合物の安定性を判断する。	
5	5月15日	芳香族性(2)	有機化学のトピックスであるフラレーンについて学ぶ。	
6	5月22日	アルコール	アルコールとエーテルの性質と反応を学ぶ。	
7	5月29日	有機金属化合物	グリニャール試薬等の有機金属化合物の性質について理解する。	
8	6月5日	アルデヒド・ケトン	ケト・エノール互変異性, アルドール縮合を学ぶ。	
9	6月12日	カルボン酸, アミン	カルボン酸とアミンの性質と反応を学ぶ。	
10	6月19日	芳香族化合物の反応(1)	芳香族置換反応の種類と機構を学ぶ。	
11	6月26日	芳香族化合物の反応(2)	フェノール, キノン, 重合禁止剤の性質を理解する。	
12	7月3日	反応速度(1)	反応速度の定義, 1次反応, 2次反応を学ぶ。	
13	7月10日	反応速度(2)	半減期と活性化エネルギーを学ぶ。	
14	8月28日	原子軌道	水素原子の構造と原子軌道について理解する。	
15	9月4日	分子軌道	水素分子の作り方と分子軌道について理解する。	
16				

# 生命の連続性と遺伝子

授業責任者：千葉 晃

教科書：理系総合のための生命科学・東京大学生命科学教科書編集委員会・羊土社

## 一般目標：

広い生物学的視野に立って歯学の基礎系教科を学ぶために、生命の連続性と遺伝子について基礎的な知識を習得する。

## 行動目標：

1. 細胞の一生（分裂，分化，細胞死）と細胞周期について概要を説明する。
2. 体細胞分裂と減数分裂の相違を中心に，それぞれの特徴を図示しながら説明する。
3. 分裂装置を図示し，分裂に関わる構造と諸因子の役割を説明する。
4. DNAの複製と修復のメカニズムを分子レベルで説明する。
5. 減数分裂と受精に伴う染色体の配分・組み合わせを遺伝の法則と関係づけて説明する。
6. 生殖細胞の特徴と受精に関する基礎事項を説明する。
7. 染色体型と核型の概念を述べ，ヒトの場合について説明する。
8. 染色体異常を類型化して説明し，それぞれの成因と発生機構を述べる。
9. ヒトの染色体異常に関連する疾患と共に説明する。

## 学習方略：

講義，レポート提出，演習

## 評価方法：

記述試験，出席状況，臨時試験，レポート

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月14日	細胞の一生	細胞分裂, 分化, 生殖, 細胞死を概観し, 生命の連続性を学習する。	千葉 晃
2	4月21日	細胞分裂の種類と細胞周期	体細胞分裂と減数分裂の特徴を比較し, 細胞周期の概念を学習する。	
3	4月28日	分裂装置と分裂のメカニズム	分裂装置の構造と体細胞分裂後期に働く3つのちから及びその発生機構について学習する。	
4	5月12日	DNAの半保存的複製	DNA複製に関する3つの可能性を比較検討し, 実験結果が半保存的複製を支持することを学習する。	
5	5月19日	DNAの複製機構	バクテリアにおけるDNA複製機構を分子レベルで学習する。	
6	5月26日	DNAの損傷と修復	DNA損傷の成因とそれによって生じた構造変化を修復する仕組みについて学習する。	
7	6月2日	臨時試験	第1～6回の学習内容について試験によって点検・確認する。	
8	6月9日	減数分裂の特徴と遺伝的意義	減数分裂の特徴とその遺伝的意義を学習する。	
9	6月16日	生殖細胞の特徴と受精	精子と卵子の形成過程を概観し, その細胞学的特徴と受精の仕組みを学習する。	
10	6月23日	遺伝の法則と染色体(演習)	染色体上の遺伝子が, 減数分裂と受精によって分配・再配合され, 子孫の形質を決めることを学習する。	
11	6月30日	染色体型と核型	ヒトの場合を例に取り, 染色体型と核型を学習する。	
12	7月7日	染色体異常とその成因	染色体異常を分類・整理し, それぞれの呼称, 特徴および成因について学習する。	
13	7月14日	ヒトの染色体異常と疾患	ヒトの染色体異常と関連疾患例について学習する。	
14	8月25日	性染色体	性染色体の特徴と性分化について学習する。	
15	9月1日	総復習	キーワードを活用して学習成果を振り返り, 総復習を行う。	
16				

# Conversational English (英語会話)

授業責任者：ティモシー・フィニー (Timothy Finney)

教科書：指定なし

## 一般目標：

To become more familiar with English using speaking, listening and reading skills in order to communicate with friends, strangers and patients.

患者、友人、初対面の人と英語でコミュニケーションするために、スピーキング、リスニング、リーディング能力の向上を目指す。

## 行動目標：

1. Students will activate passive skills of grammar and vocabulary through the use of pair and group activities.  
ペアワーク、グループワークを通じて、既知の文法や語彙の受動的な知識を、能動的なものにする。
2. Students will develop listening skills through the use of guided and open-ended conversation and through the use of various available media.  
会話教材や他の教材をつかって、リスニング能力を向上させる。
3. Students will be presented opportunities to talk on a range of common themes.  
様々な話題に関して、会話をする機会を持つ。
4. Students will increase vocabulary through reading matters of interest in English language materials such as newspapers or magazines or their choice.  
新聞雑誌などのさまざまな媒体における、自分の興味のある題材を読むことによって、語彙力を増強する。
5. Students will learn to discuss and give opinions about various topics of personal interest.  
個人的な興味のある様々な題材について、論じ、意見を述べる。

## 学習方略：

Lecture and demonstration, pair and group practice ; individual and group presentations.  
グループ練習、個人発表、グループ発表

## 評価方法：

Attendance, project tasks, class participation ; tests.  
出席状況、レポート、発表、クラス参加 (自発的な発言に得点)

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月11日	Oral practice	Practicing greetings and personal information through role-play and other activities.	Timothy Finney
2	4月18日	Oral practice	Practicing small talk. Group work.	
3	4月25日	Oral practice	Discussing personal interests.	
4	5月9日	Presentation	Listening practice. Speaking practice.	
5	5月16日	Presentation	Reading and discussion of newspaper article.	
6	5月23日	Oral practice	Newspaper activities continued plus test.	
7	5月30日	Oral practice	Talking about yourself and your personality.	
8	6月6日	Oral	Talking about Japanese culture and presentation preparation.	
9	6月20日	Oral practice	Presentation preparation.	
10	6月27日	Oral practice	Final Preparation of Japanese culture presentations. Check completed scripts.	
11	7月4日	Presentation	Group presentations.	
12	7月11日	Presentation	Group presentations continued.	
13	7月18日	Oral practice	Interview Game Activity.	
14	8月29日	Group practice	Welcome back activities. Test preparation.	
15	9月5日	Test	Test	
16				

# 健康科学

授業責任者：石井瑞樹

教科書：指定なし

参考書：衛生学・公衆衛生学 環境と健康（第4版）・田中正敏ら共著・杏林書院

## 一般目標：

国民の健康保持・増進と疾病予防・治療につとめ、地域社会における保健・医療・福祉に貢献できる医療人になるために、歯科医師となる学生が健康の意義や環境及び社会との結びつきを理解し、日常生活を通じて健康的な行動を身につける。

## 行動目標：

1. 健康の概念について、その歴史の変遷を説明する。(B-1-①)
2. 疾病・障害との対比で健康観について説明する。(B-1-③)
3. 長寿社会における健康寿命について説明する。(B-4-2) -②)
4. 健康調査について理解し、自己の健康状態を分析する。(B-4-2) -③)
5. 生活習慣病について説明する。
6. 国民の食生活状況について理解し、栄養摂取面から食生活の注意点について説明する。
7. 環境による健康への影響を説明する。(B-2-4) -①)
8. 環境基準と環境汚染を説明する。(B-2-4) -②)
9. 成人の運動習慣について説明する。
10. 健康を守る社会システムについて説明する。(B-2-2) -⑨)
11. 間食摂取状況が及ぼす齲蝕発生への影響について説明する。
12. 加齢に伴う口腔の機能の変化が健康・日常生活に及ぼす影響を説明する。(B-1-②)
13. 口腔・歯の審美性の維持・回復が健康に与える影響を説明する。(B-1-②)
14. 健康教育の重要性を理解し、効果的な健康教育の方法を説明する。
15. 地域における多職種間の連携の必要性について説明する。(B-2-2) -⑨)
16. 大規模災害がもたらす健康被害や口腔に及ぼす影響について説明する。(B-2-2) -⑩)
17. 健康科学の学習をもとに、自身の健康のために日常生活習慣を変容する。
18. 健康科学や保健医療領域で使用されている用語の意味を説明する。

## 学習方略：

事前学習，講義

## 評価方法：

論述・客観試験，レポート等の提出，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月15日	健康とは(1)	オリエンテーション, 国民の健康, 健康の定義, 疾病・障害との対比	石井 瑞樹
2	4月22日	健康とは(2)	Quality of Life, プライマリーヘルスケア, ヘルスプロモーション	
3	5月13日	健康とは(3)	健康情報の収集と活用	田中 聖至
4	5月20日	健康とは(4)	自己の健康増進に向けたレポート作成	
5	5月27日	生活と健康(1)	ブレスローの7つの健康習慣, 運動, 休養, ストレス	石井 瑞樹
6	6月3日	生活と健康(2)	保健統計と健康指標	
7	6月10日	生活と健康(3)	健康日本21, 健康寿命, 新健康フロンティア戦略	
8	6月17日	前半総括	講義前半のまとめとレポート作成	
9	6月24日	環境と健康(1)	環境と適応, 空気・水, 温熱環境	
10	7月1日	環境と健康(2)	環境悪化の要因と健康	
11	7月8日	歯・口腔と健康(1)	食生活と健康, 食育, 口腔保健とリスク評価	田中 聖至
12	7月15日	歯・口腔と健康(2)	要介護者の口腔保健, 口腔ケアの意義	江面 晃
13	7月17日	生活と健康(4)	地域医療計画と多職種連携体制	田中 彰
14	8月26日	歯・口腔と健康(3)	災害と健康 災害時歯科医療支援の必要性	
15	9月2日	講義総括	後半講義の総括および健康科学・保健医療用語の整理と解説	石井 瑞樹
16				

# 生 化 学

授業責任者：今井あかね

教科書：シンプル生化学・林 典男，広野治子 編集・南江堂

参考書：スタンダード 生化学・口腔生化学・安孫子，阿部，池尾，大塚，藤田 他編・学建書院

## 一般目標：

基礎医学を習得するため，生体を構成する物質のうち，タンパク質，糖質および脂質について化学的・物理的性質および代謝調節機序を学び，分子レベルで生命現象を理解する。

## 行動目標：

1. アミノ酸とタンパク質の構造，機能および代謝を説明する。(C-1-1) -①)
2. 酵素の機能と主な代謝異常を説明する。(C-1-1) -⑤)
3. 糖質の構造，機能および代謝を説明する。(C-1-1) -②)
4. 生体内におけるエネルギー利用を説明する。(C-1-1) -④)
5. 脂質の構造，機能および代謝を説明する。(C-1-1) -③)

## 学習方略：

講義，演習，自習

## 評価方法：

客観試験，記述試験，レポート

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月15日	タンパク質(1)	アミノ酸，ペプチド，タンパク質の化学構造を理解する。	今井あかね
2	4月22日	タンパク質(2)	タンパク質の一次，二次，三次，四次構造の概念および立体構造と生体機能の関連性を理解する。	
3	5月13日	タンパク質(3)	酵素の特性と酵素反応を理解する。	
4	5月20日	タンパク質(4)	酵素反応の生体制御機構を理解する。	
5	5月27日	タンパク質(5)	アミノ酸の代謝と尿素回路を理解する。	
6	6月3日	タンパク質(6)	確認・総括および客観試験を行う。	
7	6月10日	糖質(1)	単糖，多糖類の化学構造と性質を理解する。	
8	6月17日	糖質(2)	解糖の経路とその意義を理解する。	
9	6月24日	糖質(3)	TCAサイクルの経路とその意義，および電子伝達系・ATP生産機構を理解する。	
10	7月1日	糖質(4)	糖新生，血糖コントロールについて理解する。	
11	7月8日	脂質(1)	脂質の化学構造と生化学的性質を理解する。	
12	7月15日	脂質(2)	脂肪酸の動員と $\beta$ 酸化について理解する。	
13	7月17日	脂質(3)	脂肪酸の生合成とステロイド化合物の代謝について理解する。	
14	8月26日	代謝の相互関係	タンパク質，脂質および糖質の消化吸収とエネルギー維持のための相互関係について理解する。	
15	9月2日	栄養の生化学	各栄養素の必要量および不足や過剰時の異常について学ぶ。	
16				

# 解剖学

授業責任者：笹川一郎

教科書：グレイ解剖学・R. L. Drake他著，塩田浩平他訳・エルゼビア・ジャパン

参考書：解剖学アトラス 第3版・文光堂

分担解剖学1・2・3巻・平沢 興他著・金原出版

日本人体解剖学 上・下巻・金子丑之助他著・南山堂

## 一般目標：

人体の形態と構造を理解するために，各器官系別に基本的な解剖学的知識を習得する。

## 行動目標：

1. 身体の一部を解剖学的に区別する。(C-2-1) -①)
2. 身体の方角用語を正確に説明する。(C-2-1) -②)
3. 生体を構成する主な骨と筋を列挙する。(C-2-3) -(2)-①)
4. 骨の基本構造と結合様式を説明する。(C-2-3) -(2)-②)
5. 頭蓋骨の構成と構造を説明する。(E-2-1) -①)
6. 骨格筋の構造と機能を説明する。(C-2-3) -(2)-④)
7. 咀嚼筋，表情筋，前頸筋の構成と機能を説明する。(E-2-1) -②)
8. 脳と脊髄の基本的構造と機能を説明する。(C-2-3) -(5)-④)

## 学習方略：

講義，示説

## 評価方法：

論述試験，客観試験 (MCQ)，レポート，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月14日	総論, 骨学(1)	人体の部位と用語, 器官系の構成を理解する。骨格の構成と骨の構造の基本を理解する。	笹川 一郎
2	4月21日	骨学(2)	頭蓋の形態の基本を理解する。	
3	4月28日	骨学(3)	頭蓋底の形態の基本を理解する。	
4	5月12日	骨学(4)	頭蓋を構成する骨の形態を理解する。	
5	5月19日	骨学(5)	全身の骨格の形態について概要を理解する。	
6	5月26日	骨学(6)	骨の基本構造と結合様式を理解する。	
7	6月2日	筋学(1)	全身の筋の構成と筋の構造を理解する。	
8	6月9日	筋学(2)	頭部の筋の形態の概要を理解する。	
9	6月16日	筋学(3)	頭部の筋の形態と機能を理解する。	
10	6月23日	中枢神経(1)	脳神経と脊髄神経の違いと脳室循環系に関し理解する。	吉村 建
11	6月30日	中枢神経(2)	終脳, 大脳基底核, 間脳について理解する。	
12	7月7日	中枢神経(3)	中脳, 橋, 延髄について理解する。	
13	7月14日	中枢神経(4)	小脳と脊髄について理解する。	
14	8月25日	中枢神経(5)	上行性・下行性伝導路(脊髄神経)について理解する。	影山 幾男
15	9月1日	中枢神経(6)	脳神経に関する伝導路(視覚路, 聴覚路, 味覚路, 嗅覚路)について理解する。	
16				

# 口腔解剖学

授業責任者：高橋正志

教科書：歯の解剖学・近藤信太郎・中村雅典・影山幾男著

参考書：歯の解剖学・藤田恒太郎著・金原出版

## 一般目標：

質の高い歯科医療を提供するために、永久歯と乳歯の形態ならびにその変異と歯列の形態についての基礎知識を身につける。

## 行動目標：

1. 歯の記号・歯式・方向用語・基本形態を説明する。
2. 各永久歯の歯冠・歯根形態と特徴を説明する。(E-3-1) -②)
3. 各永久歯の髓室・根管形態を説明する。(E-3-1) -②)
4. 各乳歯の歯冠・歯根形態と特徴を説明する。(E-3-1) -②)
5. 歯列と咬合の形態について説明する。(E-2-2) -③)
6. 頻度の高い歯の形態の変異を説明する。

## 学習方略：

講義・示説

## 評価方法：

客観試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月10日	総論	歯の種類・記号・歯式・方向用語・歯の外形・内形・固定について学習する。	高橋 正志
2	4月17日	切歯(1)	切歯の共通の特徴・上顎と下顎の切歯の違いについて学習する。	
3	4月24日	切歯(2)	上顎・下顎の中切歯・側切歯の違い・固有の特徴について学習する。	
4	5月8日	犬歯(1)	犬歯の共通の特徴・上顎と下顎の犬歯の違い・固有の特徴について学習する。	
5	5月15日	切歯(3)・犬歯(2)	切歯・犬歯の歯根に関する特徴について学習する。	吉村 建
6	5月22日	小白歯(1)	小白歯の共通の特徴・上顎第一・第二小白歯の違い・固有の特徴について学習する。	高橋 正志
7	5月29日	小白歯(2)	下顎第一・第二小白歯の違い・固有の特徴について学習する。	
8	6月5日	小白歯(3)	小白歯の歯根に関する特徴について学習する。	吉村 建
9	6月12日	大白歯(1)	大白歯の共通の特徴、上顎第一・第二・第三大白歯の違い・固有の特徴について学習する。	高橋 正志
10	6月19日	大白歯(2)	下顎第一・第二・第三大白歯の違い・固有の特徴について学習する。	
11	6月26日	大白歯(3)	大白歯の歯根に関する特徴について学習する。	吉村 建
12	7月3日	歯髓腔	各歯種の髓室と根管の形態を学習する。	北島佳代子
13	7月10日	乳歯(1)	乳歯の形態的特徴を学習する。	田中 聖至
14	8月28日	乳歯(2)・歯列と咬合	乳歯の形態的特徴・永久歯列と咬合の基本的形態を学習する。	笹川 一郎
15	9月4日	歯の異常	歯の異常・形態変異を学習する。	
16				

# 口腔解剖学実習

授業責任者：吉村 建

教科書：歯の解剖学講義ノート

日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学講座 編

最新歯型彫刻 理論と実際・尾花甚一他著・医歯薬出版

一般目標：

歯と骨格の形態を立体的に理解するために、歯型彫刻、骨格標本の観察等とおして、口腔解剖学に関する基本的知識・技能を身につける。

行動目標：

1. 各歯種の解剖学的形態，特徴を表現する。(E-3-1) -②)
2. 天然歯の鑑別をする。(E-3-1) -②)
3. 頭頸部の骨格並びに歯について説明する。(E-2-1) -①, E-3-1) -②)
4. 全身骨格を列挙し説明する。(C-2-3) -(2)-①)
5. 頭蓋骨を始めとする全身骨格の形態を正確に描画記録する。(C-2-3) -(2)-①)

学習方略：

実習期間内の歯型彫刻・骨の観察・スケッチ・自習

評価方法：

提出された歯型彫刻の評価・スケッチ・スポッターテスト・客観試験

(単位数：1.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月16日	オリエンテーション	実習の進め方，観察方法，スケッチの方法，計測方法を修得する。	笹川 一郎 影山 幾男 高橋 正志 吉村 建 小林 一広 竹澤康二郎 熊木 克治
2	4月23日	骨学実習(1)	頭蓋前面の観察とスケッチを行い，その構造を学ぶ。	
3	5月7日	骨学実習(2)	頭蓋側面・下顎骨・上下顎歯列咬合面の観察とスケッチを行い，構造を学ぶ。	
4	5月14日	骨学実習(3)	内・外頭蓋底の観察とスケッチを行い，その構造を学ぶ。	
5	5月21日	骨学実習(4)	全身骨格の観察とスケッチを行い，その構造を学ぶ。	
6	5月28日	骨学実習(4)	全身骨格の観察とスケッチを行い，その構造を学ぶ。	
7	6月4日	骨学実習試験	骨学実習の内容の理解度を評価する。	
8	6月11日	口腔解剖学実習(1)	上顎右側中切歯・側切歯・犬歯の形態と特徴をスケッチする。	笹川 一郎 影山 幾男 高橋 正志 吉村 建 小林 一広 竹澤康二郎
9	6月18日	口腔解剖学実習(2)	下顎中切歯・側切歯・犬歯の形態と特徴をスケッチする。	
10	6月25日	口腔解剖学実習(3)	上下顎右側第一・二小臼歯の形態と特徴をスケッチする。	
11	7月2日	口腔解剖学実習(4)	上顎右側第一大臼歯の形態と特徴を歯型彫刻とスケッチにて修得する。	
12	7月9日	口腔解剖学実習(5)	下顎右側第一大臼歯の形態と特徴を歯型彫刻とスケッチにて修得する。	
13	7月16日	天然歯の鑑別(1)	天然歯の観察とスケッチを行う。	
14	8月27日	天然歯の鑑別(2)	天然歯の歯種の鑑別法を学ぶ。	
15	9月3日	口腔解剖学実習試験	当日指示された課題の筆記試験を行い，理解習熟度を評価する。	
16				

# 発 生 学

授業責任者：影山幾男

教科書：人体発生学（ラングマンMEDS'）・メディカル・サイエンスインターナショナル

一般目標：

頭頸部・心臓・脈管系の形態形成，発生を理解するために，人体の基本的な発生学的知識を身につける。

行動目標：

1. 鰓弓を説明する。(E-2-3) -①)
2. 咽頭溝と咽頭嚢を説明する。(E-2-3) -①)
3. 1次口蓋と2次口蓋を説明する。(E-2-3) -②)
4. 顔面の発生を説明する。(E-2-3) -①)
5. 舌の発生を説明する。(E-2-3) -⑤)
6. 下顎骨の発生を説明する。(E-2-3) -①)
7. 顔面の奇形を説明する。(E-2-4) -(1)-①)
8. 口蓋裂と口唇裂を説明する。(E-2-3) -④, E-2-4) -(1)-①)
9. 心臓と脈管の発生を説明する。(C-2-3) -(3)-①)
10. 鰓弓動脈を説明する。(C-2-3) -(3)-③)

学習方略：

講義・示説

評価方法：

客観試験 (MCQ) ・論述試験

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	8月25日	鰓弓	第1～6鰓弓，鰓弓から発生する器官について学ぶ。	影山 幾男
2	8月28日	咽頭溝と咽頭嚢	第1咽頭溝，第1，2，3，4，5咽頭嚢，それらから発生する器官について学ぶ。	
3	8月28日	顔面の形成	内側鼻隆起，外側鼻隆起，上顎突起，下顎突起について学ぶ。	
4	8月28日	1次口蓋と2次口蓋	口蓋，口腔，鼻腔の発生について学ぶ。	
5	9月1日	舌の発生とメッケル軟骨	舌，下顎骨，甲状腺の発生について学ぶ。	
6	9月4日	顎顔面の奇形	顔面の奇形，口蓋裂，口唇裂について学ぶ。	
7	9月4日	心臓の発生	心臓の1次中隔，2次中隔について学ぶ。心臓ループについて学ぶ。	
8	9月4日	動脈系と静脈系の発生	大動脈弓（第1～6）について学ぶ。臍静脈・主静脈について学ぶ。	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

# 人 類 学

授業責任者：奈良貴史

教科書：指定なし

参考書：ヒトはなぜ難産なのか・奈良貴史・岩波書店  
ネアンデルタール人類のなぞ・奈良貴史・岩波書店  
その他授業時に随時紹介する。

一般目標：

歯科医師として必要な基礎的な人体構造の理解を深めるため、人類進化の流れをつかみ、どのようにしてヒトは現在ある姿になったのかを理解する。

行動目標：

1. 霊長類の特徴を説明する。
2. ヒトの定義を説明する。
3. 直立二足歩行がもたらした負の側面を説明する。
4. 脳が拡大した理由を説明する。
5. 言語の起源について幾つかの学説を挙げながら説明する。
6. 人間性の起源について具体例を挙げて説明する。
7. ホモ・サピエンスの誕生と拡散のプロセスを説明する。

学習方略：

講義

評価方法：

試験・出席状況

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月10日	ガイダンス	何故、歯科学生に人類進化学が必要なのかを理解する。	奈良 貴史 (特別講義 馬場悠男)
2	4月17日	ヒト前史	ヒトの祖先である霊長類が、何故森林に適応したかを形態学的特徴から探る。	
3	4月24日	ヒトの誕生	ヒトの定義を理解する。	
4	5月8日	アウストラロピテクス	猿人の形態学的特徴と文化を学習する。	
5	5月15日	ホモ属の誕生	ホモ属の脳を拡大させた要因を学ぶ。	
6	5月22日	人類進化の盲点	ヒトが難産になったメカニズムを理解する。	
7	5月29日	ホモ・エレクトス	最初の脱アフリカとは何か、人類の拡散の要因を学ぶ。	
8	6月5日	最後の隣人	現生人類にとって最後の隣人であるホモ・フロレシエンシスの存在意義について考察する。	
9	6月12日	ネアンデルタール人類	ネアンデルタール人類の人類進化上の意味について理解する。	
10	6月19日	言語の起源	ヒトはいつからしゃべれるようになったのかを形態学的に考察する。	
11	6月26日	人間性の起源	埋葬の起源を探ることから人間性はいつ頃芽生えたかを考察する。	
12	7月3日	ホモ・サピエンスの出現	現生人類の誕生と拡散およびネアンデルタール人類の消滅との関係を考察する。	
13	7月10日	文化の起源	多様性に富む現生人類の文化はいつ頃から発達したのかを考察する。	
14	8月28日	日本列島の人類史(1)	日本列島には、いつ頃からヒトが住み始めて、どのような経緯で現代日本人が形成されたのかを理解する。	
15	9月4日	日本列島の人類史(2)	江戸時代における貴族的形質とは何か、出現背景を考察しながら理解する。	
16				

# 組 織 学

授業責任者：吉江紀夫

教科書：入門組織学，牛木辰男（著），南江堂

参考書：標準組織学・総論／各論・藤田尚夫・藤田恒夫（著）・医学書院

## 一般目標：

生体は様々な機能を有する細胞が目的に合って集合したものであることを理解するために，組織・器官の概念，およびそれらの構造と機能に関する基礎的知識を習得する。

## 行動目標：

1. 細胞の基本構造および細胞内小器官の構造と機能を説明する。(C-1-3) -①)
2. 上皮を形態的および機能的に分類する。(C-2-3) -①-①)
3. 腺を分泌物の性状，形態および分泌機構に基づいて分類する。(C-2-3) -①-③)
4. 結合組織を細胞間質の性状および形態に基づいて分類する。(C-2-3) -①-④)
5. 硝子軟骨，弾性軟骨および線維軟骨の特徴を説明する。(C-2-3) -①-⑤)
6. 軟骨内骨化と膜内骨化のメカニズムと骨の成長様式を説明する。(C-2-3) -①-⑥)
7. 骨の改造現象をホルモンによる調節機構と関連づけて説明する。(C-2-3) -②-③)
8. 骨格筋，心筋および平滑筋の構造と機能を説明する。(C-2-3) -①-⑧)
9. 筋線維の収縮機構を説明する。(C-2-3) -②-④)
10. ニューロンとグリア（支持細胞）の構造と機能を説明する。(C-2-3) -⑤-⑦)

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

論述試験，客観試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月11日	講義概要	細胞集団としての組織の概念を学ぶ。	吉江 紀夫
2	4月18日	細胞(1)	細胞の基本的構造を学ぶ。	
3	4月25日	細胞(2)	細胞内小器官の構造と機能を学ぶ。	
4	5月9日	細胞(3)	細胞内小器官の構造と機能を学ぶ。	
5	5月16日	上皮組織(1)	上皮組織の一般的な特徴を学ぶ。	
6	5月23日	上皮組織(2)	細胞の形と配列による上皮組織の分類を学ぶ。	
7	5月30日	上皮組織(3)	上皮組織の機能（特に分泌機能）を学ぶ。	
8	6月6日	支持組織(1)	結合組織の構造を学ぶ。	横須賀宏之
9	6月20日	支持組織(2)	軟骨組織の構造を学ぶ。	
10	6月27日	支持組織(3)	骨組織の構造を学ぶ。	
11	7月4日	筋組織(1)	筋組織の種類と構造的特徴を学ぶ。	吉江 紀夫
12	7月11日	筋組織(2)	筋組織の収縮機構を学ぶ。	
13	7月18日	筋組織(3)	筋収縮の制御機構を学ぶ。	
14	8月29日	神経組織(1)	ニューロンの構造と機能を学ぶ。	
15	9月5日	神経組織(2)	支持細胞の種類と分布，構造および機能を学ぶ。	
16				

# 生 理 学

授業責任者：岩崎信一

教科書：基礎歯科生理学第5版・森本俊文，山田好秋編・医歯薬出版

参考書：ビジュアル生理学・口腔生理学第2版・和泉博之，浅沼直和編・学建書院  
標準生理学第7版・小澤澗司他4名・医学書院

## 一般目標：

臨床歯科医学を理解するために、神経系、筋、感覚等の動物的機能の正常な働きとメカニズムに関する知識を習得する。

## 行動目標：

1. 生命現象とそのメカニズムについて説明する。
2. 細胞の構造と機能について説明する。(C-1-3)
3. 末梢神経の機能分類を説明する。(C-2-3) -(5)-(2)
4. 神経の興奮と伝導について説明する。(C-2-3) -(5)-(7, 8)
5. シナプス伝達を概説する。(C-2-3) -(5)-(9, 10)
6. 種々な感覚器の機能を説明する。(C-2-3) -(4)-(1, 2)
7. 疼痛の種類とその発生機序を説明する。(C-4-6) -(1, 2)
8. 歯の機能と歯痛の機序を説明する。(E-3-1) -(3, 4, E-3-2) -(6)
9. 歯周組織，口腔粘膜の機能を説明する。(E-2-2) -(1, 2, E-3-1) -(5)
10. 視覚器，聴覚・平衡感覚器の機能を説明する。(C-2-3) -(4)-(3)
11. 味覚器，嗅覚器の機能を説明する。(C-2-3) -(4)-(4)
12. 骨格筋，平滑筋の機能を説明する。(C-2-3) -(1)-(8, C-2-3) -(2)-(4)
13. 脳神経の種類，走行，線維構築および支配領域を説明する。(C-2-3) -(5)-(1)
14. 運動に関与する脳と脊髄の基本的構造と機能を説明する。(C-2-3) -(5)-(4, 6)
15. 脳の統合機能について説明する。(C-2-3) -(5)-(4)

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

客観試験，論述試験，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月14日	生命現象・細胞の構造と機能	生命現象，細胞の構造と機能について学習する。	岩崎 信一
2	4月21日	刺激・興奮・伝導1	刺激と興奮，興奮の伝導について学習する。	
3	4月28日	シナプス伝達	シナプスの基本構造と伝達様式および，伝達物質について学習する。	
4	5月12日	感覚機能(1) 総論，体性感覚	一般的な感覚の性質，体性感覚の種類と受容器，受容メカニズムと反応特性について学習する。	
5	5月19日	感覚機能(2) 痛覚2	疼痛の発生機序と制御機構について学習する。	
6	5月26日	感覚機能(3) 口腔感覚2	歯と口腔粘膜の感覚の特殊性，発現のメカニズムについて学習する。	
7	6月2日	感覚機能(5) 味覚，嗅覚1	味覚の受容メカニズムについて学習する。	
8	6月9日	感覚機能(5) 味覚，嗅覚3	嗅覚の受容メカニズム・反応特性と情報処理について学習する。	
9	6月16日	筋2	筋の収縮メカニズムについて学習する。	
10	6月23日	運動機能(1) 脊髄反射2	脊髄の基本的な機能について学習する。	
11	6月30日	運動機能(2) 姿勢，歩行	姿勢反射と歩行運動のメカニズムについて学習する。	
12	7月7日	運動機能(3) 随意運動1	大脳基底核，大脳皮質の構造と機能について学習する。	
13	7月14日	運動機能(3) 随意運動2	小脳の構造と機能について学習する。	
14	8月25日	脳と行動1	大脳皮質の機能局在，情動のメカニズムについて学習する。	
15	9月1日	脳と行動2	睡眠と学習のメカニズムについて学習する。	
16				

# 感染微生物学

授業責任者：葛城啓彰

教科書：シンプル微生物学・東 匡伸，小熊恵二編集・南江堂

参考書：ISDC（感染症情報センター）<http://isdc.nih.go.jp>

CDC（米国疾病管理センター）<http://www.cdc.gov>

WHO（世界保健機構）<http://www.who.int/>

## 一般目標：

感染症に対応できる歯科医師となるために，微生物の種類と特性，感染症の概念とその予防・対処方法を理解する。

## 行動目標：

1. 感染性微生物の種類を説明する。(C-3-1) -②)
2. 細菌の種類・特徴および増殖と代謝を説明する。(C-3-1) -①)
3. リケッチアの特徴および増殖と代謝を説明する。(C-3-1) -①)
4. クラミジアの特徴および増殖と代謝を説明する。(C-3-1) -①)
5. ウイルスの種類・特徴および増殖を説明する。(C-3-1) -①)
6. 真菌の種類・特徴および増殖と代謝を説明する。(C-3-1) -①)
7. 原虫の種類・特徴および増殖と代謝を説明する。(C-3-1) -①)
8. 細菌とウイルスの遺伝形式を説明する。(C-3-1) -①)
9. 化学療法の原理と限界を説明する。(C-3-1) -④, ⑥)
10. 滅菌・消毒の原理と限界を説明する。(C-3-1) -④, ⑥)
11. 皮膚・粘膜感染症の原因微生物を説明する。(C-3-1) -②, C-3-2) -⑦)
12. 眼感染症と原因微生物を説明する。(C-3-1) -②)
13. 唾液腺感染症と原因微生物を説明する。(C-3-1) -②)
14. スタンダードプリコーションを説明する。(C-3-1) -③, C-3-2) -⑦)

## 学習方略：

講義，討論，TBL（チーム基盤型学習），ツリーマップ

## 評価方法：

総括的評価：客観試験

形成的評価：出席，プレテスト，ポストテスト，ツリーマップ

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月11日	ガイダンス	授業の進め方 微生物の世界 P1～6	葛城 啓彰
2	4月18日	細菌総論(1)	細菌の分類・形態・構造および増殖と代謝，遺伝 P7～42	鈴木 安里
3	4月25日	細菌総論(2)	マイコプラズマ，リケッチア，クラミジアの分類・形態・構造および増殖と代謝，遺伝 P198～199, 203～205, 210～213	
4	5月9日	ウイルス総論	ウイルスの分類・形態・構造および増殖と代謝，遺伝 P221～268	
5	5月16日	真菌総論	真菌の分類・形態・構造および増殖と代謝，遺伝 P341～357	
6	5月23日	原虫総論	原虫の分類・形態・構造および増殖と代謝，遺伝 P367～370	
7	5月30日	感染症への生体の応答	炎症・免疫の概念，感染と発症 P43～61, 75～115	
8	6月6日	感染症の治療の概念	化学療法薬の種類と作用機序耐性菌の出現 P61～73	
9	6月20日	皮膚・口腔粘膜の感染症(1)	皮膚・粘膜の細菌性化膿性疾患，炭疽，丹毒，ライム病 P117～128, 166～168, 194～196	
10	6月27日	皮膚・口腔粘膜の感染症(2)	皮膚・粘膜の発疹症とウイルス P269～275, 306～310	
11	7月4日	皮膚・口腔粘膜の感染症(3)	皮膚・粘膜の真菌症と放線菌症 P189～190, 359～365	
12	7月11日	眼の感染症	原因微生物の性状とその予防 P273～279	
13	7月18日	唾液腺の感染症	原因微生物の性状とその予防 P273～279, 292	
14	8月29日	感染症への対応	消毒・滅菌とスタンダードプリコーション P389～400	
15	9月5日	まとめ	授業項目1～14に関する質疑応答	
16				

# 薬物療法学

授業責任者：仲村健二郎

教科書：現代歯科薬理学 第5版・加藤有三ほか・医歯薬出版

参考書：歯科薬理学 第5版・石田 甫ほか・医歯薬出版

## 一般目標：

適正な薬物療法を実践するために、生体と薬物の相互作用を学び、薬物治療の基本原則を理解する。

## 行動目標：

1. 医薬品の分類、毒薬・劇薬・麻薬の表示と保管、日本薬局方を説明する。(C-5-1) -①~③)
2. 薬物療法の目的(原因療法、対症療法)、薬理作用の基本形式と分類を説明する。(C-5-2) -①、②)
3. 薬物の用量と薬理作用の関係を説明する。(C-5-2) -④)
4. 薬物の作用機序(受容体を介する作用と介さない作用)を説明する。(C-5-2) -③)
5. 薬物の適用方法の種類とそれらの特徴を説明する。(C-5-3) -①)
6. 薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明する。(C-5-3) -②, C-2-3) -(5)-⑤)
7. 薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)を説明する。(C-5-2) -④)
8. 薬物の連用による影響(薬物耐性、蓄積、薬物依存)を説明する。(C-5-2) -⑤)
9. 薬物の併用による効果(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明する。(C-5-2) -⑥)
10. 薬物の一般的副作用・有害作用と口腔領域に現れる副作用・有害作用を説明する。(C-5-4) -①)
11. 全身麻酔薬および麻酔前投薬の種類、適用方法、特徴を説明する。(C-5-2) -⑥, E-1-3) -(4)-①)
12. 催眠薬の種類、作用機序、副作用を説明する。(C-5-2) -③, C-5-4) -①)
13. 向精神薬および抗てんかん薬の分類、作用機序、特徴、副作用を説明する。(C-5-2) -③, C-5-4) -①)
14. 呼吸器系に作用する薬物の種類、作用機序、副作用、臨床応用を説明する。(C-5-2) -③, C-5-4) -①)
15. 自律神経作用薬および運動神経作用薬の種類、作用機序、特徴、適応症、副作用を説明する。(C-5-2) -③, C-5-4) -①)

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

試験、学習態度、出席状況

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月14日	薬物と医薬品、薬物療法の目的	医薬品の分類、毒薬・劇薬・麻薬の表示と保管、日本薬局方、薬物療法（原因療法、対症療法）、薬理作用の基本形式を理解する。	仲村健二郎
2	4月21日	用量と薬理作用	薬物の用量の区分（有効量、中毒量等）、作用強度と安全性を示す指標（ED <sub>50</sub> 、LD <sub>50</sub> 、安全域）を理解する。	
3	4月28日	薬理作用の機序	薬物受容体の種類とそれらの生理機能、受容体作用薬と遮断薬の薬理作用、受容体を介さない薬物の作用機序を理解する。	
4	5月12日	薬物の適用方法	薬物の適用方法の種類とそれらの特徴を理解する。	
5	5月19日	薬物動態(1) 吸収と分布	血中への薬物の移行（吸収）と組織への移行（分布）の基本的特性を理解する。	
6	5月26日	薬物動態(2) 代謝と排泄	体内における薬物の変化（代謝）と体内からの消失（排泄）の基本的特性を理解する。	
7	6月2日	薬物の作用を規制する要因	薬物の作用を規制する要因（用量と反応、感受性）を理解する。	
8	6月9日	薬物の連用の影響と併用の効果	薬物の連用の影響（耐性、蓄積、依存性）、併用による効果（協力、拮抗、相互作用）を理解する。	
9	6月16日	薬物の副作用と有害作用	薬物の一般的副作用・有害作用と口腔領域に現れる副作用・有害作用を理解する。	
10	6月23日	全身麻酔薬、麻酔前投薬、アルコール	全身麻酔薬の種類、薬理作用、適用方法、麻酔前投薬の種類・薬理作用・使用目的を理解する。	
11	6月30日	催眠薬、向精神薬、抗てんかん薬	催眠薬、向精神薬、抗てんかん薬の種類・薬理作用・適応・副作用を理解する。	
12	7月7日	呼吸器系作用薬	抗喘息薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の種類・薬理作用・適応・副作用を理解する。	
13	7月14日	交感神経作用薬	交感神経作用薬の種類、作用機序、特徴、適応症、副作用を理解する。	
14	8月25日	副交感神経作用薬、運動神経作用薬	副交感神経作用薬および運動神経作用薬の種類・作用機序・特徴・適応症・副作用を理解する。	
15	9月1日	総括	授業全般の要点について学習する。	
16				

# 基礎歯科医学補講 I

授業責任者：仲村健二郎

教科書：口腔微生物学・石原和幸他・学建書院  
現代歯科薬理学第5版・加藤有三他・医歯薬出版  
シンプル生化学・林典男，広野治子編集・南江堂  
口腔の発生と組織・久米川正好他著・南山堂

参考書：口腔生化学・早川太郎他監修・医歯薬出版

## 一般目標：

臨床歯科医学を理解するため、微生物学、薬理学、生化学および口腔組織学の知識を習得する。

## 行動目標：

1. 口腔細菌，歯垢および歯石について説明する。(E-3-2)-⑤)
2. 歯の硬組織の疾患の病因と病態を説明する。(E-3-2)-①)
3. 歯周疾患の病因と病態を説明する。(E-3-2)-④)
4. 歯性感染症の原因菌と感染経路を説明する。(E-2-4)-(3)-①)
5. 腎臓の構造と機能および腎臓に作用する薬物の種類，作用機序，副作用，臨床応用を説明する。(C-5-2)-③，C-2-3)-(9)-①，②，③)
6. 自律神経系の構造と機能および自律神経作用薬の種類，作用機序，特徴，適応症，副作用を説明する。(C-5-2)-③，C-2-3)-(5)-③，⑩)
7. 食物の消化とそれに関わる酵素反応を説明する。(C-1-1)-①，②，③，⑤)
8. 糖質代謝と齶蝕の関係，およびアミノ酸代謝と口臭の関係を説明する。(C-1-1)-①，②，E-3-2)-⑤)
10. 脊椎動物におけるヒトの歯の進化的位置を理解する。(E-3-1)-①)
11. 歯と歯周組織の発生過程の概略を理解する。(E-3-1)-①，⑤)
12. 歯と歯周組織の構造の概略を理解する。(E-3-1)-③，④，⑤)

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

レポート，ソクラテス

(単位数：)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月15日	口腔環境	口腔環境の特徴と常在微生物叢, バイオフィルムの形成	葛城 啓彰
2	4月22日	齲蝕と微生物	齲蝕原因菌の性状	
3	5月13日	歯周炎と微生物	歯周病原菌の性状	
4	5月20日	誤嚥性肺炎	口腔環境と誤嚥性肺炎, 介護関連肺炎の関係, 口腔ケアの重要性	
5	5月27日	口腔粘膜疾患とウイルス	ヘルペスウイルス群の性状と再起感染, コクサッキーウイルスの性状	
6	6月3日	口腔粘膜疾患と細菌	結核・梅毒・放線菌症・ジフテリアの原因微生物の性状	
7	6月10日	口腔粘膜疾患と真菌	口腔カンジダ症の原因微生物の性状	
8	6月17日	腎臓に作用する薬物	利尿薬, 抗利尿薬の種類, 作用機序, 特徴, 適応症, 副作用を理解する。	仲村健二郎
9	6月24日	交感神経作用薬, 副交感神経作用薬	交感神経作用薬および副交感神経作用薬の種類, 作用機序, 特徴, 適応症, 副作用について学ぶ。	
10	7月1日	消化の生化学	食物の消化とそれに関わる酵素について学ぶ。	梨田 智子
11	7月8日	口腔環境の生化学	糖質代謝と齲蝕の関係, およびアミノ酸代謝と口臭の関係について学ぶ。	
12	7月15日	歯の構造的進化	下等脊椎動物から哺乳類までの進化にともなう歯の構造の変遷を学ぶ。	石山巳喜夫
13	7月17日	歯の発生概説	歯の発生過程における細胞と細胞間質の関係を学ぶ。	
14	8月26日	歯の構造概説	エナメル質, 象牙質および歯髄の基本構造を学ぶ。	
15	9月2日	歯周組織の構造概説	歯の顎骨への植立機構を学ぶ。	
16				

# 基礎歯科医学補講Ⅱ

授業責任者：影山幾男

教科書：基礎歯科生理学第5版・森本俊文，山田好秋編・医歯薬出版

グレイ解剖学・R. L. Drake他著，塩田浩平他訳・エルゼビア・ジャパン

参考書：ビジュアル生理学・口腔生理学第2版・和泉博之，浅沼直和編・学建書院

標準生理学第7版・小澤澁司他4名・医学書院

分担解剖学1巻～3巻・森 於菟他・金原出版

一般目標：

臨床歯科医学を理解するために，正常なヒトの生体機能と形態の知識を習得する。

行動目標：

1. 頸部の筋の構成と機能を説明する。(E-2-1) -②)
2. 生体を構成する主な筋を列挙する。(C-2-3) -②)-①)
3. 感覚器（外皮，視覚器，平衡聴覚器，嗅覚器，味覚器）についてその構造と機能を説明する。  
(C-2-3) -④)-①，③，④)
4. 脳神経と脊髄神経の違いを理解する (C-2-3) -⑤)-②)
5. 脳神経 (I～IV) の起始，走行，分布と関連する障害について理解する (C-2-3) -⑤)-①)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験と論述試験および出席状況を総合して評価する。

(単位数：)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月15日	興奮性組織	神経の活動電位の発生とその伝播の基礎を学習する。	岩崎 信一
2	4月22日	刺激・興奮・伝導2	神経の種類と機能について学習する。	
3	5月13日	感覚機能(2) 痛覚1	疼痛の種類と受容器について学習する。	
4	5月20日	感覚機能(3) 口腔感覚1	歯と口腔粘膜の感覚の種類と受容器について学習する。	
5	5月27日	感覚機能(4) 視覚, 聴覚, 平衡感覚	視覚, 聴覚, 平衡感覚の受容メカニズム・反応特性と情報処理について学習する。	
6	6月3日	感覚機能(5) 味覚, 嗅覚2	味覚の反応特性と情報処理について学習する。	
7	6月10日	筋1	筋の種類と構造について学習する。	
8	6月17日	運動機能(1) 脊髄反射1	脊髄の基本的な構造について学習する。	
9	6月24日	筋学(4)	頸部の筋の形態と機能を学習する。	笹川 一郎
10	7月1日	筋学(5)	体幹の筋の形態について概要を学習する。	
11	7月8日	筋学(6)	体肢の筋の形態について概要を学習する。	
12	7月15日	感覚器(1)	外皮, 嗅覚器, 味覚器の構造と機能を学習する。	吉村 建
13	7月17日	感覚器(2)	視覚器, 平衡聴覚器の構造と機能を学習する。	
14	8月26日	末梢神経(1)	脳神経と脊髄神経の違いを学習する。	影山 幾男
15	9月2日	末梢神経(2)	脳神経の起始, 走行, 分布について学習する。	
16				

# 歯科理工学

授業責任者：後藤真一

教科書：コア歯科理工学・小倉英夫他・医歯薬出版株式会社，歯科理工学教育用語集・歯科理工学会編，小倉英夫他・医歯薬出版

参考書：スタンダード歯科理工学－生体材料と歯科材料－ 第5版・榎本貢三他・学研書院，臨床歯科理工学・宮崎隆，小倉英夫他，Restorative Dental Materials, RG Craig 10th ed., C.V. Mosby

## 一般目標：

最適な修復物を制作するために，歯科修復物に要求される性質と使用材料の基本的特性，ならびに修復物を製作するための成形・加工技術とその特徴を理解する。

## 行動目標：

1. 歯科修復物に要求される性質を説明する。(D-2-①, E-3-3) -(1)-⑦)
2. 種々の歯科修復物に使用される材料の名称と基本的特性を述べる。(D-2-①, E-3-4) -(1)-②)
3. 印象採得の方法と技術上の特徴について説明する (D-2-③, E-3-4) -(1)-⑨, E-3-4) -(2)-⑦)
4. 模型の作製方法と技術上の特徴について説明する。(D-2-④, E-3-4) -(1)-⑦)
5. レジン修復物の作製方法と技術上の特徴について説明する。(D-2-①, D-2-⑥)
6. 鋳造修復物の作製方法と技術上の特徴について説明する。(D-2-⑥)
7. ろう付と熱処理の方法を説明する。(D-2-⑥, E-3-4) -(2)-⑪)
8. 陶材修復物の作製方法と技術上の特徴について説明する。(D-2-⑥)
9. 成形修復の方法と技術上の特徴について説明する。(D-2-②, E-3-3) -(1)-⑦)
10. 合着・接着の機構と合着・接着材の所要性質を説明する。(D-2-⑦)
11. エナメル質・象牙質セラミックス・金属に対する接着の特徴ならびに接着方法について説明する。(D-2-⑦)
12. 歯科用機器・器具の特徴について説明する。(D-1-④)

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

客観試験（多肢選択式試験50%，記述式試験50%）

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月16日	歯科修復と材料・技術	歯科修復物に使用される各種材料と成形加工技術の概要	宮川 行男
2	4月23日	印象採得	印象採得の方法と技術上の特徴および印象材の所要性質	赫多 清
3	5月7日	模型の作製	模型の作製方法と技術上の特徴および模型材の所要性質	
4	5月14日	重合	重合の原理とレジン修復物の種類・所要性質	
5	5月21日	歯科精密鑄造(1)	鑄造による歯科修復物の作製方法	後藤 真一
6	5月28日	歯科精密鑄造(2)	鑄造に使用される材料, その所要性質, および寸法補正理論	
7	6月4日	ろう付と熱処理	ろう付の目的と方法, 熱処理の目的・方法と原理および技術的特徴	
8	6月18日	陶材焼成	陶材焼成と金属焼付陶材冠の作製方法および技術的特徴, およびCAD/CAMによるセラミック修復物の作製	大熊 一夫
9	6月25日	成形修復(1)	成形修復の方法と成形修復材の所要性質	
10	7月2日	成形修復(2)	成形修復の技術的特徴および長所・短所	
11	7月9日	成形修復(3)	成形修復の問題点と原因	宮川 行男
12	7月16日	合着・接着(1)	合着・接着の機構と合着・接着材の所要性質	
13	8月27日	合着・接着(2)	エナメル質・象牙質・セラミックス・金属との接着	
14	9月3日	切削・研磨	歯質の切削, 修復物・補綴物の研削, 切削工具・研削材・切削器械の種類と特徴, 診療器械, CAD/CAM用切削・研削工具	大熊 一夫
15				
16				

# 生体機能調節学

授業責任者：熊倉雅彦

教科書：入門組織学，牛木辰男（著），南江堂 基礎歯科生理学，森本俊文・山田好秋（編），医歯薬出版

参考書：標準組織学・総論／各論，藤田尚男・藤田恒夫（著），医学書院 標準生理学，小澤瀨司他（編），学建書院 スタンダード生化学・口腔生化学，安孫子宣光 他（編）

## 一般目標：

生体の恒常性維持（ホメオスタシス）を理解するために，中心的な役割を果たす内分泌系と神経系について，形態，機能および分子機構の面から総合的な知識を習得する。

## 行動目標：

1. 各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明する。(C-2-3) -(8)-①)
2. 神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明する。(C-2-3) -(5)-⑧)
3. シナプスにおける興奮伝達を概説する。(C-2-3) -(5)-⑨)
4. ホルモンおよび神経伝達物質の種類と機能を説明する。(C-1-4) -②, C-2-3) -(8)-①)
5. 受容体を介する細胞間，細胞内の情報伝達機構を概説する。(C-1-4) -②)
6. 内分泌系と神経系の機能相関を概説する。(C-2-3) -(8)-①)

## 学習方略：

講義，演習

## 評価方法：

客観試験，出席状況，受講態度

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月16日	講義概要	本講義のねらいを理解し、恒常性維持機構の概念を学ぶ。	熊倉 雅彦
2	4月23日	細胞間情報伝達	細胞間情報伝達様式とホルモン・神経伝達物質の種類と分類を学ぶ。	今井あかね
3	5月7日	受容体と情報伝達(1)	受容体を介する細胞内シグナル伝達機構を学ぶ。	
4	5月14日	受容体と情報伝達(2)	エイコサノイドとサイトカインの種類と作用を学ぶ。	
5	5月21日	内分泌系(1)	内分泌細胞の形態的特徴と体内分布を学ぶ。	熊倉 雅彦
6	5月28日	内分泌系(2)	視床下部・脳下垂体の構造を学ぶ。	
7	6月4日	内分泌系(3)	甲状腺と上皮小体の構造を学ぶ。	
8	6月18日	内分泌系(4)	副腎の構造と機能を学ぶ。	
9	6月25日	内分泌系(5)	膵臓ランゲルハンス島の構造と機能を学ぶ。	
10	7月2日	内分泌系(6)	視床下部・脳下垂体の機能とホルモンを学ぶ。	佐藤 義英
11	7月9日	内分泌系(7)	甲状腺と副腎の機能とホルモンを学ぶ。	
12	7月16日	内分泌系と神経系の機能相関	視床下部－脳下垂体－末梢内分泌器官の機能相関を学ぶ。	
13	8月27日	神経の興奮と伝播	活動電位の発生とその伝播の機序を学ぶ	石塚 健一
14	9月3日	シナプス伝達機構	シナプスにおける興奮の伝達機構を学ぶ。	
15				
16				

# 材 料 科 学

授業責任者：大熊一夫

教科書：コア歯科理工学・小倉英夫他・医歯薬出版株式会社

参考書：スタンダード歯科理工学・第5版・楳本貢三・中嶋 裕・西山典宏・宮崎 隆・米山隆之  
他編・学建書院

## 一般目標：

歯科で使用される材料の物性や特性を理解するために、基礎科学と歯科材料の科学と関連する知識を習得する。

## 行動目標：

1. 原子の構造と結合（イオン結合，共有結合，金属結合，共有結合，配位結合，水素結合，ファンデルワールス力）について説明する。（D-1-①）
2. 有機材料の構造，生成，反応（重合，架橋）および特性について説明する。（D-1-①）
3. 無機材料の構造（結晶を含む），生成，反応（酸-塩基，水和）および特性について説明する。（D-1-①）
4. 金属材料の構造（結晶を含む），純金属と合金，合金状態図および特性について説明する。（D-1-①）
5. 複合材料の構造と特性について説明する。（D-1-①）
6. 材料の物理的性質（密度，熱膨張，熱伝導，比熱，ぬれ性，色彩，不透明）について説明する。（D-1-②）
7. 材料の機械的性質（応力とひずみ，比例限と耐力，強さと伸び，展性と延性，レジリエンス，靱性，展性と延性，衝撃，疲労，硬さ，クリープ，粘弾性）について説明する。（D-1-②）
8. 材料の化学的性質（吸水，溶解，反応速度，変色，腐食，不動態）について説明する。（D-1-②）
9. 材料の生物学的性質（毒性，刺激性，感作性，発癌性，親和性・適合性）および安全性の評価について説明する。（D-1-②，D-1-③）
10. 歯科材料の素材に用いられる具体的材料の種類を述べる。（D-1-②）

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

筆記試験（多肢選択式試験50%，記述式試験50%）

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月16日	原子の構造と結合(1)	原子の構造と化学結合	種村 潔
2	4月23日	原子の構造と結合(2)	イオン結合, 共有結合, 金属結合, 配位結合, 水素結合, ファンデルワールス力および結晶構造	
3	5月7日	有機材料	有機材料の構造, 生成, 反応(重合, 架橋)および特性	
4	5月14日	無機材料	無機材料の構造(結晶を含む), 生成, 反応(酸-塩基, 水和)および特性	大熊 一夫
5	5月21日	金属材料	金属材料の構造(結晶を含む), 純金属と合金, および特性	後藤 真一
6	5月28日	複合材料	複合材料の構造と特性, および歯科材料の代表例	宮川 行男
7	6月4日	材料の物理的性質(1)	熱に対する材料の物理的変化と材料の熱的性質(密度, 熱膨張, 比熱など), および水に対する材料の特性(ぬれ性)	山下 陽介
8	6月18日	材料の物理的性質(2)	光に対する材料の特性と材料の光学的性質(色彩, 不透明性)	
9	6月25日	材料の化学的性質(1)	材料の吸水, 溶解, 反応速度	大熊 一夫
10	7月2日	材料の化学的性質(2)	変色, 腐食, 不動態	
11	7月9日	材料の機械的性質(1)	応力とひずみ, 応力-ひずみ曲線, 比例限と耐力	赫多 清
12	7月16日	材料の機械的性質(2)	強さと伸び, 展性と延性, レジリエンス, 超弾性と形状記憶	
13	8月27日	材料の機械的性質(3)	脆性と靱性, 各種試験方法, フロー, 硬さ	
14	9月3日	材料の生物学的性質	生体組織に対する材料の毒性, 刺激性, 感作性, 発癌性および安全性の評価	宮川 行男
15				
16				

# 食育・食術

授業責任者：中村直樹

参考書：歯科栄養―臨床に役立つ基礎知識―・小鹿眞理，加藤靖正・学建書院 食生活と身体  
の退化・W. A. プライス・片山恒夫訳・農山漁村文化協会 中原市五郎の日本食養道，復  
刻版（口腔保健ブックレット）・風人社

## 一般目標：

食の本質という視点から疾病予防の実践・啓蒙を行うために，栄養学の基礎や今日の我が国におけ  
る食事情を理解し，自らの生活習慣の改善および歯科から国民への食生活の関わり方を考える。

## 行動目標：

1. 健康増進法，食育基本法への歯科医師の役割を述べる。
2. ライフステージに応じた食育について説明する。
3. ヒトの食性と食生活について概説する。
4. 健康維持・増進における食の重要性を述べる。
5. 疾病の概念，種類および予防法を説明する。(B-1-③)
6. 代謝障害とその症状を列挙する。(E-2-4) -(9)-⑧)
7. ビタミン欠乏症とその症状を列挙する。(E-2-4) -(9)-⑨)
8. 適切な食事指導（栄養指導）の概要を述べる。
9. 情報を自ら収集，分析し問題点を探し出す。

## 学習方略：

講義，演習（食事分析と改善方法）

## 評価方法：

出席状況（欠格事項），客観試験・論述試験（70%），レポート（30%）

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月10日	食育・食術とは	歯科はどのように食に関わっていけばよいのか？自分の食生活を記録してみる。	中村 直樹
2	4月17日	栄養素(1) 熱量素, 食物繊維	人間に必要な栄養素について, 最近の知見を含めて学習する。	
3	4月24日	栄養素(2) 調節素	ビタミン・ミネラルについて, 最近の知見を含めて学習する。	
4	5月8日	ライフステージ における食育	歯科から発信する, ライフステージにおける食育の実際について学ぶ。	
5	5月15日	伝統食と食術(1)	動物のヒトにおける食, 日本人における食について学習する。	
6	5月22日	伝統食と食術(2)	情報・知識・嗜好・経済・宗教などに影響される食について学ぶ。	
7	5月29日	確認と総括	客観試験, 論述試験, 総括	
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				



## 第2学年 後期授業科目 目次

実用医学英語	56
英語会話	58
社会歯科入門	60
基礎口腔保健学	62
口腔生化学	64
解剖学	66
解剖学実習	68
口腔組織学	72
生理学	74
感染微生物学	76
病理学	78
歯科薬物療法学	80
歯科理工学	82
歯科理工学実習	84
専門歯科治療概論	86
医療統計学	88
顎口腔運動制御学	90
唾液と唾液腺	92

# 実用医学英語

授業責任者：影山幾男

教科書：医学英語 I ・清水雅子・メディカルビュー・Odontology

一般目標：

国際社会で活躍する歯科医師となるために、実用的に必要な医学英語を習得する。

行動目標：

1. 医学英語問題を用い、医学用語の意味を説明する。
2. グループワークを通じて、医学英語の語彙、文法を説明する。
3. Odontologyと他の英語論文を比較する。
4. 基礎的な医学英作文を列記する。
5. ロールプレイや発表を通じて、英語で討議する。

学習方略：

グループワーク・講義・プレゼンテーション・ロールプレイ

評価方法：

プレゼンテーションの評価・客観試験（MCQ）・論述試験，出席状況

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	10月6日	オリエンテーション	英語の試験を実施し、グループ分けを行う。 今後の進め方。	影山 幾男
2	10月15日	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを英語で行う。 英語発表の準備。	
3	10月20日	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを英語で行う。 英語発表の構成。	
4	10月27日	プレゼンテーション(3)	プレゼンテーションを英語で行う。 プレゼンテーションのイントロ。	
5	11月6日	プレゼンテーション(4)	プレゼンテーションを英語で行う。 メッセージの伝え方。	
6	11月10日	プレゼンテーション(5)	プレゼンテーションを英語で行う。 Visual aidsの使い方 スライド作成方法。	
7	11月17日	プレゼンテーション(6)	プレゼンテーションを英語で行う。 良い結論の導き方。	
8	12月1日	プレゼンテーション(7)	プレゼンテーションを英語で行う。 質疑応答の対処方法, ライブ感。	
9	12月8日	プレゼンテーション(8)	プレゼンテーションを準備する。	
10	12月15日	発表会	プレゼンテーションを評価する。	
11	12月22日	発表会	プレゼンテーションを評価する。	
12	1月9日	基礎系英語問題	基礎医学系英語問題をグループで学ぶ。Odontologyを読む。	
13	1月19日	臨床系英語問題	臨床医学系英語問題をグループで学ぶ。Odontologyを読む。	
14	1月26日	最終試験	これまでの理解度を見きわめる。	
15				
16				

# Conversational English (英語会話)

授業責任者：ティモシー・フィニー (Timothy Finney)

教科書：指定なし

## 一般目標：

To continue using speaking, listening and reading skills in order to communicate with friends, strangers and patients.

患者、友人、初対面の人と英語でコミュニケーションするために、スピーキング、リスニング、リーディング能力の向上を目指す。

## 行動目標：

1. Students will activate passive skills of grammar and vocabulary through the use of pair and group activities.  
ペアワーク、グループワークを通じて、既知の文法や語彙の受動的な知識を、能動的なものにする。
2. Students will develop listening skills through the use of guided and open-ended conversation and through the use of various available media.  
会話教材や他の教材をつかって、リスニング能力を向上させる。
3. Students will be presented opportunities to talk on a range of common themes.  
様々な話題に関して、会話をする機会を持つ。
4. Students will increase vocabulary through reading matters of interest in English language materials such as newspapers or magazines or their choice.  
新聞雑誌などのさまざまな媒体における、自分の興味のある題材を読むことによって、語彙力を増強する。
5. Students will learn to discuss and give opinions about various topics of personal interest.  
個人的な興味のある様々な題材について、論じ、意見を述べる。

## 学習方略：

Lecture and demonstration, pair and group practice; individual and group presentations.  
グループ練習、個人発表、グループ発表

## 評価方法：

Attendance, project tasks, class participation ; tests.  
出席状況、レポート、発表、クラス参加 (自発的な発言に得点)

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	10月7日	Oral practice	Practicing conversation : Group work and teacher-student interaction.	Timothy Finney
2	10月14日	Oral practice	Listening practice.	
3	10月21日	Oral practice	Game and puzzle activities. Speaking practice.	
4	10月28日	Presentation	Learning about Halloween through various activities, including watching an American animation program.	
5	11月4日	Presentation	Reading various related stories and discussing them in groups/consolidating information and checking for understanding.	
6	11月11日	Test	A quiz regarding the previous week's information.	
7	11月18日	Oral practice	Dental Visit Role Playing. Begin Presentation Preparation	
8	11月25日	Oral practice	Dental/Patient Role Playing and Presentation Final Preparation. Check Script.	
9	12月2日	Oral practice	Dentist/patient role-playing Presentations	
10	12月9日	Presentation	Dentist/Patient Role-play presentations.	
11	12月16日	Presentation	Interview Game Activity	
12	1月13日	Oral practice	Sequential art studies.	
13	1月20日	Oral practice	Sequential art studies continued & test preparation	
14	1月27日	Test	Test	
15				
16				

# 社会歯科入門

授業責任者：江面 晃

参考書：スタンダード社会歯科学・編集石井拓男，岡田真人，尾崎哲則，平田幸夫・学建書院  
新社会歯科学・編集可児徳子，末高武彦・医歯薬出版

## 一般目標：

歯科医師として責務を全うするために，医療倫理を構築する前に必要な倫理規範の初歩に触れ，その重要性を理解する。

## 行動目標：

1. 患者の権利を説明する。(A-1-①)
2. 患者の自己決定権を説明する。(A-1-②)
3. 患者が自己決定できない場合の対応を説明する。(A-1-③)
4. 医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説する。(A-2-①)
5. 医の倫理に関する規範・国際規範を概説する。(A-2-②)
6. 生と死に関わる倫理的問題を説明する。(A-2-③)
7. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明する。(A-4-①)
8. 歯科医師の法的義務を列挙する。(A-3-⑤)
9. 歯科医師法・医療法等関連法規を概説する。(C-2-1) -①～④)
10. 保健制度，医療保険制度，介護保険制度等を概説する。(C-2-2) -①～④，⑧，⑨)

## 学習方略：

講義・自己学習・スモールグループディスカッション (SGD)

## 評価方法：

論述試験・客観試験 (臨時試験)，ディスカッションへの参加度，レポート，出席状況

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月1日	患者の権利と医の倫理(1)	患者の権利と義務，歯科医師の義務と責任，歯科医師の社会的使命	藤井 一維
2	10月22日	医の倫理(2)	医の倫理に関する規範・国際規範，インフォームドコンセント，バイオエシックス	江面 晃
3	11月5日	医の倫理(3)	生と死に関する問題	藤井 一維
4	11月19日	医療制度と医療経済	医療費の仕組み，医療提供制度，医療保険制度の仕組み・構造，福祉医療制度	江面 晃
5	12月3日	医療関係法(1)	歯科医師法，歯科衛生士法，歯科技工士法等	藤井 一維
6	12月17日	医療保険制度	健康保険法，国民健康保険法，高齢者の医療の確保に関する法，医療保険財政	江面 晃
7	1月14日	介護保険制度	医療・福祉・介護の連携，チーム医療，介護保険制度における歯科医師の役割，介護サービス計画	
8	1月28日	医療関係法(2)	医療法，その他関係法規	藤井 一維
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

# 基礎口腔保健学

授業責任者：小松崎 明

教科書：口腔衛生学2014・松久 保隆 他・一世出版

参考書：シンプル衛生公衆衛生学（改訂第9版）・鈴木庄亮，久道 茂・南江堂

## 一般目標：

健康科学，社会歯科学，基礎系歯科医学での知識を基本として口腔疾患の予防と口腔機能の保持増進の意義を理解し，口腔保健を向上させるために，必要となる基本的知識と技法について習得する。

## 行動目標：

1. 歯科医師にとって基礎口腔保健学の必要性を説明する。
2. 口腔保健の現状（齲蝕や歯肉の状況）について必要な資料をもとに説明する。
3. 国民の口腔保健に対する意識行動について必要な資料をもとに説明する。
4. 咀嚼の意義，唾液分泌との関連性，健康との関連性について説明する。
5. ペリクル，歯垢，歯石の口腔保健に及ぼす影響について説明する。
6. 発生要因別，実施主体別に予防方法を分類し，それぞれを説明する。（C-3-1）-①，②
7. ライフステージにおける予防を説明する。（C-3-2）-③
8. 口腔保健に関係したスクリーニング検査を説明する。（C-4-1）-②
9. 齲蝕経験に関する指標について説明し，指数を分析，算出する。（C-4-1）-③
10. 歯周疾患の疫学指標について説明し，その指数を分析，算出する。
11. 口腔清掃に関する指標について説明し，指数を分析，算出する。
12. 代用甘味料の種類と齲蝕予防との関連について説明する。
13. 齲蝕予防にフッ化物を用いるにあたり，食品からのフッ素の摂取状況，体内での吸収蓄積等について説明する。（C-3-2）-②
14. フッ素の毒性と齲蝕予防への応用時における注意事項について説明する。
15. フッ化物を用いた予防法について，また，それぞれの長所短所について比較して説明する。
16. 歯周疾患，不正咬合のリスクファクターおよび予防方法について説明する。（C-3-2）-①

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

論述・客観試験，出席状況

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者	
1	10月7日	口腔保健学概説	口腔保健学の意義，ヘルスプロモーション，8020運動，健康日本21，新健康フロンティア戦略	小松崎 明 鴨田 剛司 小野 幸絵	
2	10月14日	口腔環境	唾液の作用，歯の沈着物，歯垢の形成，歯石の形成，歯垢・歯石の病原性，歯垢微生物		
3	10月21日	齲蝕とその予防(1) (発生要因，齲蝕活動性)	多要因疾患，ミュータンス連鎖球菌，不溶性グルカン，齲蝕活動性，齲蝕活動性試験の種類		
4	10月28日	齲蝕予防へのフッ化物応用(1)	自然界および体内のフッ素，フッ素の吸収・排泄，フッ素の毒性，フッ素の急性中毒時の対応，歯のフッ素症		
5	11月4日	口腔の発育と機能	摂食・嚥下機能の発達，歯の萌出・交換と口腔保健		
6	11月11日	疫学の応用 疫学指標(1)	疫学概論，齲蝕・歯周疾患の疫学的特性，疫学指標の条件，う蝕の指標（DMF），歯式表記		
7	11月18日	疫学指標(2)	歯周疾患（PMA，GI，PDI，PI，CPI），口腔清掃状態の指標（OHI，OHI-S，PLI，PHP，PCR）		
8	11月25日	疫学指導演習	DMF指数，CPI，OHIを中心に算定方法を演習する。		
9	12月2日	口腔保健の現状	歯周疾患実態調査，現在歯数，歯の寿命，齲蝕・歯周疾患の状況，フッ化物塗布状況		
10	12月9日	齲蝕とその予防(2) (間食，代用甘味料)	ステファン曲線，間食回数（食生活），ショ糖，キシリトール，フィッシャーシーラント，PMT C		
11	12月16日	口腔清掃の意義と種類 口腔清掃法(1)	口腔清掃法の分類，ブラッシング法の種類と術式，補助的清掃用具，歯磨剤		
12	1月13日	齲蝕予防へのフッ化物応用(2)	フッ化物歯面塗布，フッ化物洗口，フッ化物配合歯磨剤		
13	1月20日	口腔清掃法(2)，生活習慣と口腔保健	PMT C，口腔疾患のリスクファクターの分類，口腔疾患のリスクファクターの評価		
14	1月27日	歯周疾患，その他疾患の予防	歯周疾患の予防，不正咬合の予防，顎関節症の予防，口臭の予防，過去の国家試験問題を用いての演習，まとめ		
15					
16					

# 口腔生化学

授業責任者：梨田智子

教科書：口腔生化学：監修；早川太郎，須田立雄，木崎治俊・医歯薬出版  
シンプル生化学：林典男，広野治子編集・南江堂

参考書：スタンダード生化学・口腔生化学：安孫子宣光，池尾隆他編著・学建書院

## 一般目標：

生命現象を分子レベルで説明できるようにするための基本として，遺伝子の構造と機能，遺伝の基本的機序を学習する。さらに口腔における生命現象を生化学的に説明できるようにするため，結合組織を構成する物質と機能，硬組織（骨・歯）の成分と機能，これらの調節機構を理解する。

## 行動目標：

1. 遺伝子と染色体の構造を理解しセントラルドグマを説明する。(C-1-2) -①)
2. 遺伝子の複製，修復，転写，翻訳の機序を説明する。(C-1-2) -②～④)
3. 遺伝性疾患の発生の機序を説明する。(C-1-2) -⑤)
4. 遺伝子組換え現象と遺伝子操作技術を説明する。(C-1-2)
5. 細胞増殖と癌化の機構を説明する。(C-1-2) -⑤，(C-1-3) -③，④，(C-4-1) -③)
6. 血球の形成過程と機能を説明する。(C-2-3) -⑪-②，③)
7. 血液に含まれるタンパク質および酵素の種類とそれらの機能を説明する。(C-1-1) -⑤)
8. 止血と凝血の機構を説明する。(C-2-3) -⑪-③，④)
9. 主な細胞外マトリックス分子の構造と働きを説明する。(C-1-4) -①～③，(C-2-3) -⑪-④)
10. 細胞外マトリックス分子の代謝について説明する。(C-1-4) -③)
11. 炎症の定義と起炎因子を説明する。(C-4-4) -①)
12. 硬組織の成分とそれらの機能および調節機構を説明する。(C-2-3) -⑫-②，③)
13. カルシウムイオンの体内における濃度制御を説明する。(C-2-3) -⑫-③，(C-2-3) -⑧-①)
14. 石灰化の機構を説明する。(C-2-3) -⑪-⑦)
15. 歯と歯周疾患の病因と病態の概要を説明する。(E-3-2) -①，④)

## 学習方略：

講義，演習

## 評価方法：

客観試験，レポート

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月3日	遺伝子生命科学 (1)	染色体および遺伝子の基礎を学習し、転写と翻訳の分子機構を理解する。	梨田 智子
2	10月10日	遺伝子生命科学 (2)	遺伝性疾患の発生の機序、および基本的な遺伝子操作技術を学習する。	
3	10月17日	遺伝子生命科学 (3)	細胞周期とその調節機構を理解し、細胞の癌化との関連を学習する。	
4	10月24日	血液成分の生化学	血球の形成と機能、および血清成分について学習する。	
5	10月31日	血液凝固と線溶	血液凝固と線溶の機構を学習する。	
6	11月7日	炎症の生化学	炎症の発症機序および起炎物質を学習する。	
7	11月14日	中間試験	遺伝子生命科学、血液成分・血液凝固、炎症についての理解度を見きわめる。	
8	11月21日	結合組織の化学 (1)	細胞外マトリックスの構造と機能を学習する。	
9	11月28日	結合組織の化学 (2)	細胞とマトリックス間の接着分子の構造と機能を学習する。	
10	12月5日	結合組織の化学 (3)	細胞外マトリックス成分の分解とその調節を学習する。	
11	12月12日	硬組織の有機成分	硬組織の有機成分とそれらの機能および調節機構について学習する。	
12	12月19日	硬組織の無機質と石灰化	硬組織の無機成分と石灰化機構を学習する。	
13	1月16日	カルシウムとリン酸代謝	カルシウムおよびリン酸イオンの体内における調節機構を学習する。	
14	1月23日	硬組織の形成と吸収	硬組織の形成と吸収機構を学習する。	
15	1月30日	歯と歯周組織の疾患	歯と歯周組織の疾患の病因と病態を学習する。	
16				

# 解剖学

授業責任者：影山幾男

教科書：グレイ解剖学・R. L. Drake他・エルゼビア・ジャパン

参考書：分担解剖学 1 巻～3 巻・森 於菟 他・金原出版

一般目標：

精密な人体の形態と構造を追求するために、各器官系の基本的な解剖学的知識を身につける。

行動目標：

1. 三叉神経と顔面神経の走行と分布および線維構成を説明する。(E-2-1) -④)
2. 舌咽神経と迷走神経の走行と分布および線維構成を説明する。(C-2-3) -(5)-①)
3. 副神経と舌下神経の走行と分布および線維構成を説明する。(C-2-3) -(5)-①)
4. 末梢神経系の機能分類（体性神経系と自律神経系）を説明する。(C-2-3) -(5)-②)
5. 交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明する。(C-2-3) -(5)-③)
6. 心臓の刺激伝導系，心筋の特徴，標準的心電図，心音を説明する。(C-2-3) -(3)-①)
7. 肺循環と体循環の 2 系統を説明する。(C-2-3) -(3)-②)
8. 動脈，毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明する。(C-2-3) -(3)-③)
9. 主な動脈と静脈を列挙する。(C-2-3) -(3)-⑤)
10. リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明する。(C-2-3) -(3)-⑥)
11. 消化管（食道，胃，小腸，大腸）の基本構造と機能を説明する。(C-2-3) -(6)-①)
12. 消化管付属腺（膵臓，肝臓）についてその構造と機能を説明する。(C-2-3) -(6)-②，③)
13. 呼吸器（鼻腔，副鼻腔，気管，気管支，肺）についてその構造と機能を説明する。(C-2-3) -(7)-①，②)

学習方略：

講義・示説

評価方法：

客観試験（MCQ）・論述試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者	
1	10月6日	末梢神経(1)	三叉神経の起始，走行，分布と関連する障害について学ぶ。	影山 幾男	
2	10月15日	末梢神経(2)	顔面神経の起始，走行，分布と関連する障害について学ぶ。		
3	10月20日	末梢神経(3)	舌咽神経・迷走神経の起始，走行，分布と関連する障害について学ぶ。		
4	10月27日	末梢神経(4)	副神経・舌下神経の起始，走行，分布と関連する障害について学ぶ。		
5	11月6日	末梢神経(5)	頸神経叢・腕神経叢の構成とその関連する障害について学ぶ。		
6	11月10日	末梢神経(6)	腰神経叢・仙骨神経叢並びに肋間神経の構成とその関連する障害について学ぶ。		
7	11月17日	中間試験	末梢神経系についての理解度を見きわめる。		
8	12月1日	脈管学(1)	心臓の位置，心臓の部屋，心臓の弁装置，X線解剖，刺激伝導系，心臓の栄養血管，心膜について学ぶ。		
9	12月8日	脈管学(2)	頭頸部の動脈，上肢の動脈，体幹の動脈，下肢の動脈について学ぶ。		
10	12月15日	脈管学(3)	インプラントの手術や抜歯の際に必要な上顎，下顎部の血管について学ぶ。		
11	12月22日	脈管学(4)	静脈系とリンパ系について学ぶ。		
12	1月9日	内臓学(1)	消化器①（消化管，消化腺）についてその構造と機能を学ぶ。		
13	1月19日	内臓学(2)	消化器②（消化管，消化腺）についてその構造と機能を学ぶ。		
14	1月26日	内臓学(3)	呼吸器（鼻腔，副鼻腔）についてその構造と機能を学ぶ。		
15					
16					

# 解剖学実習

授業責任者：影山幾男

教科書：解剖学実習書（日本歯科大学）

グレイ解剖学・R. L. Drake他著，塩田浩平他訳・エルゼビア・ジャパン

参考書：分担解剖学・平沢 興 他・金原出版

解剖学カラーアトラス・Johannes W. Rohen他・医学書院

歯科学生のための解剖学実習・小林茂夫他・南江堂

## 一般目標：

人体の形態と構造を理解するために、肉眼形態学的観察を通じて人体の形態学的正常構造を習得し、さらに、医療従事者としての医の倫理性を身につけるために、生命の尊厳および献体者への感謝の気持ちを体得する。

## 行動目標：

1. 肉眼形態学的手法により全身の神経，脈管，筋，内臓等の形態的特徴に配慮した適切な剖出を実施する。
2. 剖出された全身の神経，脈管，筋，内臓等の形態を正確に描画記録する。
3. 描画記録した所見を通じ，全身の諸器官の構造や破格の存在を説明する。
4. 歯科医学領域に密接に関連する顔面頭頸部領域の諸器官の構造を説明する。
5. 献体者への感謝の気持ちを持ち，さらに，医療従事者としての医の倫理性，生命の尊厳に配慮した態度を示す。

## 学習方略：

実習・グループディスカッション・スケッチ・提示課題による調査研究・レポート・示説

## 評価方法：

スケッチ・課題記録・口頭試問・客観試験

(単位数：2.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月2日	オリエンテーション 背面(1)	実習実施要領並びに諸注意を理解する。背面を皮切し、背面浅層を剖出する。	影山 幾男 笹川 一郎 高橋 正志 吉村 建 小林 一広 竹澤康二郎 熊木 克治 相澤 幸夫 江玉 睦明
2	10月3日	背面(2)	背面浅層を剖出し、その構造を説明する。	
3	10月9日	背面(3)	背面中層を剖出し、その構造を説明する。	
4	10月10日	背面(4)	背面中層を剖出し、その構造を説明する。	
5	10月16日	背面(5)	背面深層を剖出し、その構造を説明する。	
6	10月17日	背面(6)	背面深層を剖出し、その構造を説明する。	
7	10月23日	前面(1)	体表観察並びに前面の皮切をする。	
8	10月24日	前面(2)	広頸筋と脊髄神経前枝を剖出し、その構造の説明をする。	
9	10月30日	前面(3)	広頸筋下層と脊髄神経前枝の剖出をし、その構造を説明する。	
10	10月31日	前面(4)	胸鎖乳突筋を切断、反転、胸部の筋を剖出し、その構造を説明する。	
11	11月7日	前面(5)	頸神経叢の皮枝、腹部の筋を剖出し、その構造を説明する。	
12	11月13日	内頭蓋底	東京歯科大学、井出吉伸学長特別講義[予定]・内頭蓋底の構造を理解する。	
13	11月14日	前面(6)	頸神経ワナと大胸筋を剖出し、その構造を説明する。	
14	11月20日	前面(7)	頸動脈鞘と上肢帯の筋・神経・脈管を剖出し、その構造を説明する。	
15	11月21日	前面(8)	腕神経叢を剖出し、その構造を説明する。	
16	11月27日	前面(9)	腹斜筋と上腕と大腿筋膜を剖出し、その構造を説明する。	

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者	
17	11月28日	前面(10)	腹直筋と深胸筋を剖出し、その構造を説明する。	影山 幾男 笹川 一郎 高橋 正志 吉村 建 小林 一広 竹澤康二郎 熊木 克治 相澤 幸夫 江玉 睦明	
18	12月4日	前面(11)	頭部皮切および胸腔について説明する。 (胸部内臓摘出)		
19	12月5日	前面(12)	顔面筋および胸膜・心膜を剖出し、その構造を説明する。		
20	12月11日	前面(13)	顔面神経・胸部内臓を剖出し、その構造を説明する。		
21	12月12日	前面(14)	頭部の深層・胸部内臓を剖出し、その構造を説明する。(頭部離断)		
22	12月18日	前面(15)	咽頭・喉頭および、胸部内臓を剖出し、その構造を説明する。(広島大学, 里田隆博教授特別講義1予定)		
23	12月19日	前面(16)	咀嚼筋および腹部内臓を剖出し、その構造を説明する。(広島大学, 里田隆博教授特別講義2予定)		
24	1月8日	前面(17)	下顎及び腹部内臓を剖出し、その構造を説明する。		
25	1月15日	前面(18)	鼻腔及び消化管・肝臓を剖出し、その構造を説明する。		
26	1月16日	前面(19)	翼口蓋窩及び、腹膜後器官を剖出し、その構造を説明する。		
27	1月22日	前面(20)	耳(外耳, 中耳, 内耳)・眼(眼窩内容物)を剖出し、その構造を説明する。		
28	1月23日	背面(7)	脊髄を剖出し、その構造を説明する。(納棺を行う)		
29	1月28日	脳実習(1)	脳の外部構造を観察し、説明する。		
30	1月29日	脳実習(2)	大脳半球の内部構造および脳幹・小脳の構造を観察し、説明する。		
31	1月30日	最終テスト	最終テストで実習の内容の理解度を評価する。		
32					



# 口腔組織学

授業責任者：石山巳喜夫

教科書：口腔の発生と組織・久米川正好他著・南山堂

参考書：Avery 口腔組織・発生学・寺木良巳他訳・医歯薬出版

一般目標：

臨床歯科医学の理解に必要な，口腔の組織構造の基礎知識を習得する。

行動目標：

1. 歯と歯周組織の発生過程を説明する。(E-3-1) -①)
2. 歯の硬組織の構造と機能を説明する。(E-3-1) -③)
3. 歯髓の構造と機能を説明する。(E-3-1) -④)
4. 歯の顎骨への植立機構を説明する。(E-3-1) -⑤)
5. 消化管の基本構造を説明する。(C-2-3) -(6)-①)
6. 口腔粘膜の基本構造を説明する。(E-2-2) -①)
7. 味覚器と嗅覚器の微細構造を説明する。(C-2-3) -(4)-④)
8. 扁桃とリンパ節の構造と機能を説明する。(C-2-3) -(11)-①)

学習方略：

講義

評価方法：

論述試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月2日	歯の初期発生	歯の初期発生過程における上皮・間葉相互作用について学ぶ。	石山巳喜夫
2	10月9日	歯の形成と石灰化	歯の組織発生と石灰化について学ぶ。	
3	10月16日	歯周組織の発生	歯周組織の発生を学ぶ。	
4	10月23日	歯(1) エナメル質(1)	エナメル小柱の組織学的特徴を学ぶ。	
5	10月30日	歯(2) エナメル質(2)	エナメル質の組織構造を学ぶ。	
6	11月13日	歯(3) 象牙質(1)	象牙細管の組織学的特徴を学ぶ。	
7	11月20日	歯(4) 象牙質(2)	象牙質の組織構造を学ぶ。	
8	11月27日	歯(5) 歯髄	歯髄の組織構造を学ぶ。	
9	12月4日	歯周組織(1) セメント質, 歯根膜	セメント質と歯根膜の組織構造を学ぶ。	
10	12月11日	歯周組織(2) 歯槽骨, 歯肉	歯肉と歯槽骨の組織構造を学ぶ。	
11	12月18日	歯の萌出	歯の萌出過程を学ぶ。	
12	1月8日	消化管	咽頭から大腸までの消化管の粘膜構造の推移を学ぶ。	横須賀宏之
13	1月15日	口腔粘膜, 舌	口腔粘膜の組織構造を学ぶ。舌乳頭の種類とその構造を学ぶ。	
14	1月22日	扁桃, リンパ節	扁桃の種類と構造およびリンパ節の構造を学ぶ。	辻村麻衣子
15	1月29日	味覚器, 嗅覚器	味覚と嗅覚の感覚器の組織構造を学ぶ。	
16				

# 生 理 学

授業責任者：石塚健一

教科書：基礎歯科生理学第5版・森本俊文・山田好秋編・医歯薬出版

参考書：ビジュアル生理学・口腔生理学第2版・和泉博之，浅沼直和編・学建書院 標準生理学第7版・小澤滯司他4名・医学書院

## 一般目標：

臨床歯科医学を理解するために、自律神経系、循環・呼吸、排泄、消化・吸収等の生体の植物的機能の正常な働きとメカニズムに関する知識を習得する。

## 行動目標：

1. 自律機能に関与する末梢神経の基本的構造と機能を説明する。(C-2-3) - (5)-②, ③, ⑨, ⑩)
2. 自律機能に関与する脳と脊髄の基本的構造と機能を説明する。(C-2-3) - (5)-④)
3. 心臓や血管系の構造と機能を説明する。(C-2-3) - (3)-①~③)
4. 血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明する。(C-2-3) - (3)-③, ④, ⑥)
5. 気道系や肺の構造と機能を説明する。(C-2-3) - (7)-①, ②)
6. 呼吸の調節機構を説明する。(C-2-3) - (7)-①, ②)
7. 腎臓と尿路（尿管，膀胱，尿道）の構造と機能を説明する。(C-2-3) - (9)-①)
8. 体液の量と組成および浸透圧の調節機能を説明する。(C-2-3) - (9)-②)
9. 水代謝と主な電解質の出納を説明する。(C-2-3) - (9)-③)
10. 消化管の基本構造と機能を説明する。(C-2-3) - (6)-①)
11. 肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明する。(C-2-3) - (6)-②)
12. 膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明する。(C-2-3) - (6)-③)

## 学習方略：

講義，ソクラテス演習問題，授業支援システムによる確認テスト

## 評価方法：

客観試験，出席状況，受講態度

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月7日	自律機能(1) 自律神経系の構造	交感神経系と副交感神経系の構造について学習する。	石塚 健一
2	10月14日	自律機能(2) 自律神経遠心路の性質	自律神経遠心路の性質について学習する。	
3	10月21日	自律機能(3) 中枢性調節と内臓求心性神経と内臓感覚	自律神経の中枢性調節と内臓求心性神経と内臓感覚について学習する。	
4	10月28日	自律機能(4) 食物摂取と体温調節	食物摂取と体温の調節について学習する。	
5	11月4日	体液の循環(1) 心臓	心筋の電氣的・力学的性質，心周期について学習する。	
6	11月11日	体液の循環(2) 血液循環	血液循環について学習する。	
7	11月18日	体液の循環(3) 循環調節	血液循環の調節機構について学習する。	
8	11月25日	呼吸(1) 呼吸	呼吸の調整機構について学習する。	
9	12月2日	呼吸(2) ガス交換と呼吸の調節	ガス交換と呼吸の調節について学習する。	
10	12月9日	排泄(1) 尿の生成機構	腎臓による尿の生成機構について学習する。	
11	12月16日	排泄(2) 腎機能の調節と排尿	腎機能の神経性・液性調節機構と排尿を学習する。	
12	1月13日	排泄(3) 体液恒常性の調節	体液の量と組成および浸透圧の調節機構と水・電解質代謝と酸-塩基平衡について学習する。	
13	1月20日	消化・吸収(1) 消化管	消化管の基本構造と機能について学習する。	
14	1月27日	消化・吸収(2) 膵・肝・胆	膵臓の特徴と，肝臓の構造と機能および胆汁の分泌について学習する。	
15				
16				

# 感染微生物学

授業責任者：葛城啓彰

教科書：シンプル微生物学・東 匡伸，小熊恵二編集・南江堂

参考書：ISDC（感染症情報センター）<http://isdc.nih.go.jp>

CDC（米国疾病管理センター）<http://www.cdc.gov>

WHO（世界保健機構）<http://www.who.int/>

## 一般目標：

感染症に対応できる歯科医師となるために、微生物の種類と特性、感染症の概念とその予防・対処方法を理解する。

## 行動目標：

1. 食中毒の原因微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -①)
2. 溶血性尿毒症症候群を起こす微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -⑤)
3. 腸管感染症を起こす原因微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -①)
4. 胃潰瘍・慢性胃炎と原因微生物を説明する。(C-3-1) -⑤)
5. 呼吸器感染症を起こす微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -⑤)
6. 結核の原因微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -⑤, C-3-2) -⑦)
7. 中枢神経感染症を起こす微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -①, C-3-2) -⑦)
8. 肝炎を起こす微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -⑤, C-3-2) -⑦)
9. 性行為感染症を起こす微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -⑤)
10. AIDSの原因微生物と予防法を説明する。(C-3-1) -⑤)
11. 1類感染症を起こす微生物とその予防法を説明する。(C-3-1) -⑤, C-3-2) -⑦)
12. 1類感染症の危険性について説明する。(C-3-1) -⑤)

## 学習方略：

講義，TBL（チーム基盤型学習），討論，レポート

## 評価方法：

総括的評価：客観試験

形成的評価：出席，プレテスト，ポストテスト

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月3日	腸管感染症(1)	細菌性食中毒と原因細菌，ウイルスと下痢症とその予防 P118～120, 133～150, 177～179, 312～313	葛城 啓彰
2	10月10日	腸管感染症(2)	腸管出血性大腸菌と溶血性尿毒症症候群の性状と予防 P129～133	
3	10月17日	腸管感染症(3)	腸管感染症を起こす原因細菌と3類感染症の予防 P133～136, 140～141	
4	10月24日	腸管感染症(4)	胃潰瘍・慢性胃炎と原因細菌，発癌と除菌法 P150～152	
5	10月31日	呼吸器感染症(1)	呼吸器感染と原因ウイルスとその予防 P283～288	
6	11月7日	呼吸器感染症(2)	呼吸器感染と原因細菌・真菌・原虫と2類感染症 P169～172, 145～147, 162～163, 213～214	
7	11月14日	呼吸器感染症(3)	結核と原因細菌，予防法と2類感染症 P182～187	
8	11月21日	中枢神経感染症 (1)	破傷風と細菌性・真菌性・原虫性髄膜炎とその予防 P175～176	
9	11月28日	中枢神経感染症 (2)	ウイルス性脳炎，黄熱病，ポリオとその予防 P306～308, 295～297, 315～320	
10	12月5日	中枢神経感染症 (3)	プリオンタンパクの性質と病原性 P334～339	
11	12月12日	肝炎と感染症	肝炎ウイルスの性状と予防 P327～334	
12	12月19日	性行為感染症	古典的4大性病の病原体の性状とその予防 P191～194, 159～161, 145～147, 210～213	
13	1月16日	A I D S	新興性行為感染症 HIVの性状とAIDSの予防 P323～326	
14	1月23日	1類感染症	ウイルス性出血熱 P297～301 ペストと天然痘 P138～139, 269～271	
15	1月30日	まとめと討論	1～14のまとめと質疑応答	
16				

# 病 理 学

授業責任者：岡田康男

教科書：標準病理学 第4版・坂本穆彦，北川昌伸，仁木利郎 編・医学書院

参考書：歯学生のための病理学 一般病理編 第2版・二階宏昌，佐藤方信，賀来 亨 編・医歯薬出版

## 一般目標：

歯科医師として必要な口腔・顎・顔面領域に発現する疾患の病態・病理について，全身と関連づけた知識を習得するために，総論として一般病理学的に理解する。

## 行動目標：

1. 病理学の歴史的な役割を知り，種々の病因（内因や外因）と関連した疾患の発生，病期，病型の病態・病理を説明する。（C-4-1）～5）
2. 細胞と組織の傷害（退行性変化：変性，萎縮，壊死，アポトーシス）や成長の異常を通して疾病の病態・病理を説明する。（C-1-3）-④，C-4-1）-①～④）
3. 生物・化学・物理的損傷による創傷の基本的な修復と治癒に影響する因子や治癒過程の病態・病理を説明する。（C-4-2）-①～④，E-2-4）-(2)-①）
4. 血行障害，リンパ流障害，ショック，血圧異常などの循環障害の病態・病理を説明する。（C-4-3）-①～⑦）
5. 不特定抗原に対する生体防御機構としての炎症性反応の局所的や全身的变化，病期と出現する滲出細胞や肉芽の役割の病態・病理を説明する。（C-4-4）-①～④，E-2-4）-(3)-①～⑤，E-2-4）-(4)-②）
6. 特定抗原に対する生体防御機構におけるアレルギー，免疫異常等を通して生体防御機構の病態・病理を説明する。（C-3-2）-①～⑥，E-2-4）-(9)-③）
7. 先天異常，奇形や遺伝性疾患の概念とその病態・病理を説明する。（E-2-4）-(1)-①，②）
8. 腫瘍の病因，成立機序と分類を理解し，腫瘍の良性・悪性の病態・病理を総論的に説明する。（C-4-5）-①～⑥，E-2-4）-(5)-⑤～⑦，⑩，⑪，⑬）
9. 血液・造血器系の疾患，医原性疾患ならびに老年病の病態・病理について説明する。（C-2-4）-①，C-5-4）-①，E-2-3）-③，E-2-4）-(9)-①，E-4-3）-②）
10. 口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明する。（E-1-1）-②）

## 学習方略：

講義，示説

## 評価方法：

レポート，ソクラテス授業，出席状況，客観試験

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月2日	細胞・組織の障害	組織細胞の退行性変化の病態・病理 非腫瘍性で修復性	岡田 康男
2	10月9日	反応性増殖, 再生, 修復	反応性増殖の病態・病理 再生, 修復の病態・病理	
3	10月16日	循環障害	生命維持に関係する各種循環障害の病態・病理	
4	10月23日	炎症, 感染症(1)	炎症の意義, 発生機序と分類およびその病態・病理 病原微生物による生体組織での感染症の病態・病理	東理 頼亮
5	10月30日	感染症(2), 免疫とアレルギー	病原微生物による生体組織での感染症の病態・病理 免疫機構とその異常に起因する疾患の生体組織での病態・病理	
6	11月13日	代謝障害, 医原性疾患	代謝障害による疾患の病態・病理 医原性疾患の定義と分類に基づく病態・病理	
7	11月20日	先天異常, 奇形, 老化	先天的発育異常(奇形や遺伝性疾患)の概念およびその病態・病理 加齢に伴う各種臓器の形態的变化と機能的变化およびその病態・病理	岡田 康男
8	11月27日	腫瘍	腫瘍の原因, 発生機序と分類および良・悪性腫瘍の病態・病理 腫瘍の臓器特異性と関連したそれぞれの良・悪性についての病態・病理	
9	12月4日	血液・造血器, リンパ節, 循環器疾患	口腔領域疾患に関連する血液・造血器, リンパ節, 循環器疾患の定義と分類に基づく病態・病理	
10	12月11日	呼吸器疾患	口腔領域疾患に関連する呼吸器疾患の定義と分類に基づく病態・病理	大窪 泰弘
11	12月18日	消化管, 肝・胆・膵疾患	口腔領域疾患に関連する消化管, 肝・胆・膵疾患の定義と分類に基づく病態・病理	
12	1月8日	腎・尿路系, 男性生殖器疾患	口腔領域疾患に関連する腎・尿路系, 男性生殖器疾患の定義と分類に基づく病態・病理	東理 頼亮
13	1月15日	婦人科・乳腺疾患	口腔領域疾患に関連する婦人科・乳腺疾患の定義と分類に基づく病態・病理	
14	1月22日	脳・神経疾患, 内分泌疾患	口腔領域疾患に関連する脳・神経疾患, 内分泌疾患の定義と分類に基づく病態・病理	岡田 康男
15	1月29日	皮膚, 骨, 軟部疾患	口腔領域疾患に関連する皮膚, 骨, 軟部疾患の定義と分類に基づく病態・病理	
16				

# 歯科薬物療法学

授業責任者：桑島治博

教科書：現代歯科薬理学 第5版・加藤有三ほか・医歯薬出版

参考書：歯科薬理学 第5版・石田 甫ほか・医歯薬出版

## 一般目標：

臨床において薬物療法を実践するために、歯科治療で使用される薬物の薬理作用を理解し、歯科薬物療法における適正使用を習得する。

## 行動目標：

1. 硬組織に作用するホルモン、ビタミンの生理・薬理作用および硬組織に影響を及ぼす薬物の薬理作用を説明する。(C-5-2) -③)
2. 出血とその修復過程、および止血薬と抗凝血薬の種類、特徴、用法を説明する。(C-2-3) - (11)-④, C-5-2) -③)
3. 滅菌法、消毒薬の種類、特徴、歯科での用途を説明する。(C-3-1) -③)
4. 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬の種類、作用機序、特徴、副作用を説明する。(C-3-1) -④, C-5-2) -①, ③, ⑥, C-5-3) -②, C-5-4) -①)
5. 抗悪性腫瘍薬の種類、作用機序、特徴、副作用を説明する。(C-3-1) -④, C-5-2) -①, ③, ⑥, C-5-4) -①)
6. う蝕症、歯周疾患、う蝕予防に使用される歯科用局所応用薬の作用と性質を説明する。(B-3-2) -②)
7. オータコイドの種類、生体内動態、薬理作用、炎症反応との関連を説明する。(C-5-2) -③)
8. 抗炎症薬の種類、作用機序、副作用、適正使用を説明する。(C-5-2) -①, ②, ③, ⑥, C-5-4) -①)
9. 鎮痛薬の種類、作用機序、副作用、適正使用を説明する。(C-5-2) -③, C-5-4) -①)
10. 局所麻酔薬の種類、適用方法、副作用、麻酔効果に影響を及ぼす因子を説明する。(E-1-3) -③)-②~⑤)
11. 循環器作用薬の種類、作用機序、特徴、適応症、副作用を説明する。(C-5-2) -③)

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

論述・多肢選択試験、出欠状況

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	10月6日	硬組織に作用する薬物	歯や骨に影響を及ぼすホルモン、ビタミン等の種類、生理・薬理作用、欠乏症、補充療法について学習する。	桑島 治博
2	10月15日	止血薬、抗凝血薬	出血とその修復過程、および止血薬、抗凝血薬の分類、種類、作用機序、特徴、用法、薬物の相互作用について学習する。	
3	10月20日	滅菌法、消毒薬	滅菌方法の種類と特徴、および消毒薬の種類、薬理作用、特徴、用法について学習する。	
4	10月27日	抗菌薬	抗菌薬総論および各種抗菌薬の種類、特徴、副作用、相互作用について学習する。	
5	11月6日	抗真菌薬、抗ウイルス薬	抗真菌薬、抗ウイルス薬の種類、特徴、副作用、相互作用について学習する。	
6	11月10日	抗悪性腫瘍薬	抗悪性腫瘍薬総論および各種抗悪性腫瘍薬の種類、特徴、副作用について学習する。	
7	11月17日	歯科用局所応用薬	歯内療法薬、歯周疾患治療薬の種類、口腔用薬、う蝕予防薬の種類、濃度、作用、用法、特性について学習する。	
8	12月1日	オータコイド(1)	ヒスタミン、セロトニン、アンジオテンシンの体内動態、薬理作用、炎症反応との関連について学習する。	
9	12月8日	オータコイド(2)	ブラジキニン、プロスタグランジンの体内動態、薬理作用、炎症反応との関連について学習する。	
10	12月15日	抗炎症薬	ステロイド薬、非ステロイド薬、消炎酵素薬の種類、作用機序、特徴、副作用、歯科疾患での使い分けについて学習する。	
11	12月22日	鎮痛薬	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬および解熱鎮痛薬の種類、適応、特徴、副作用について学習する。	
12	1月9日	局所麻酔薬	局所麻酔薬の分類、種類、作用機序、副作用、適用方法、麻酔効果に影響を及ぼす因子について学習する。	
13	1月19日	強心薬、抗不整脈薬	強心薬および抗不整脈薬の種類、作用機序、特徴、適応症、副作用について学習する。	
14	1月26日	狭心症、高血圧治療薬	抗狭心症薬および抗高血圧症薬の種類、作用機序、特徴、適応症、副作用について学習する。	
15				
16				

# 歯科理工学

授業責任者：赫多 清

教科書：コア歯科理工学・第1版・小倉英夫 他編・医歯薬出版，歯科理工学教育用語集・第1版・日本歯科理工学会編・医歯薬出版

参考書：Craig's Restorative Dental Materials, 12<sup>th</sup>ed., Powers JM, Sakaguchi RL, C. V. Mosby  
スタンダード歯科理工学・第4版・鈴木一臣，榎本貢三，岡崎正之，中嶋裕，西山典宏 他  
編・学建書院

## 一般目標：

歯科材料を適切に選択し，使用することのできる歯科医師となるために，各種歯科材料の種類と用途，基本組成，構造，性質を把握し，適正な材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。

## 行動目標：

1. 印象材の種類と分類法を説明する。(D-2-③)
2. 各種印象材の種類と用途，基本組成と硬化機構，特性，および取扱い方法について説明する。(D-2-③)
3. 模型の種類，模型材の所要性質と種類について説明する。(D-2-④)
4. 歯科用石膏の種類と用途，基本組成と硬化機構，特性，および取扱い方法について説明する。(D-2-④)
5. 歯科用ワックスの種類と用途，特性について構成成分と関連付けて説明する。(D-2-⑤)
6. 鋳造用埋没材の種類と用途，性質について組成と関連付けて説明する。(D-2-②)
7. 成形修復材の種類，成分，用途，特性，ならびに重合方法，使用方法について説明する。(D-2-①)
8. 歯冠修復用レジンの種類，成分，特徴，および使用方法を説明する。(D-2-①)
9. レジン歯の種類，成分，特徴を説明する。(D-2-②)
10. リン酸亜鉛セメント・ポリカルボキシレートセメント・グラスアイオノマーセメントの用途，基本組成と硬化機構，性質，および取扱い方法 について説明する。(D-2-⑦)
11. 接着性レジンセメントの用途，種類と基本組成，特徴について説明する。(D-2-⑦)
12. EBAセメントとケイリン酸塩セメントの基本組成と特徴を述べる。(D-2-⑦)

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

客観試験（50%），記述試験（45%），受講状況（5%）

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	10月6日	印象材(1)	印象材の種類と分類 ハイドロコロイド印象材の成分、性質、用途および取扱い方法	赫多 清
2	10月15日	印象材(2)	ゴム質印象材の成分、性質、用途および取扱い方法	
3	10月20日	印象材(3)	非弾性印象材の成分、性質、用途および取扱い方法	
4	10月27日	模型材(1)	模型の種類、模型材の所要性質 石膏の基本的性質	
5	11月6日	模型材(2)	歯科用石膏の種類と性質 模型用高分子材料の種類と性質	
6	11月10日	パターン材料(1)	パターン材料の種類と用途 歯科用ワックスの種類	
7	11月17日	パターン材料(2)	歯科用ワックスの成分と性質 基礎床材料	
8	12月1日	埋没材	埋没材の種類、組成、性質および用途	大熊 一夫
9	12月8日	成形修復材(1)	成形修復材の種類、用途、組成、ならびに硬化機構と硬化体の構造	
10	12月15日	成形修復材(2)	各種成形修復材の理工学的性質	
11	12月22日	歯冠修復用レジン、レジン歯	歯冠修復用レジンの成分、性質、および使用方法レジン歯の成分と特徴	
12	1月9日	合着・接着材(1)	合着・接着材の種類。リン酸亜鉛セメントの用途、組成、硬化機構、理工学的性質、取扱い方法	宮川 行男
13	1月19日	合着・接着材(2)	ポリカルボキシレートセメントの用途、組成、硬化機構、理工学的性質、取扱い方法。EBAセメントとケイリン酸塩セメントの組成と特徴	
14	1月26日	合着・接着材(3)	ガラスイオノマーセメントの用途、組成、硬化機構、理工学的性質、取扱い方法。接着性レジンセメントの用途、種類と組成、特性、取扱い方法	
15				
16				

# 歯科理工学実習

授業責任者：宮川行男

教科書：新版 歯科理工学実習指針・宮坂 平，宮川行男編集，赫多 清，後藤真一，大熊一夫，宮川行男，他著・医歯薬出版

参考書：スタンダード歯科理工学・第5版・榎本貢三，中嶋裕，西山典宏，宮崎 隆，米山隆之他編・学建書院，コア歯科理工学・第1版・小倉英夫，他編・医歯薬出版

## 一般目標：

歯科材料を適切に取り扱うことの出来る歯科医師となるために、歯科材料の使用工程と基本的な取り扱い方法を習得するとともに、各種歯科材料の種類、使用条件による物性の変化を理解する。

## 行動目標：

1. 印象材と模型材の基本的な取り扱い方法を説明する。
2. 各種弾性印象材の弾性的性質を弾性ひずみ，永久ひずみの測定値から説明する。
3. 使用する印象材，模型材の種類から模型の寸法変化を予測する。
4. 各種歯科用石膏の硬化時間，硬化膨張の違いを説明する。
5. 義歯床用加熱重合レジンのパリマー（粉）とモノマー（液）の混合物の基本的な取り扱いを行うとともに，混合物の経時的な状態変化を説明する。
6. 加熱重合レジン適切な条件で重合する。
7. 常温重合レジン基本的な取り扱いを行うとともに，重合機構について説明する。
8. ワックスアップ法について説明し，単純窩洞のワックスアップを実施する。
9. ワックスパターンの内部応力と変形との関係について説明し，変形の少ないワックスパターン取り扱い法を述べる。
10. 鑄造工程の基本的操作を行うとともに，鑄造収縮補償理論について説明する。
11. 合着用セメントの基本的な取り扱いを行うとともに，稠度，圧縮強さに及ぼす取り扱い方法の及ぼす影響について説明する。
12. 成形充填材（成形歯冠修復材）の基本的な取り扱いを行うとともに，辺縁封鎖性に及ぼす各種要因の影響について説明する。

## 学習方略：

実習（学生は4グループに分かれ，印象・模型，重合，鑄造，合着・成形歯冠修復の4テーマの実験をローテーションしながら行う。従って次頁の実施月日の学習内容は，1及び14回を除き，所属するグループによって異なることになる。）

## 評価方法：

データシート（レポート）・実習態度を主とし，筆記試験は補完とする。

(単位数：1.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月1日	ガイダンス	歯科理工学実習の概要と注意事項，ならびにデータシートの採点法	
2	10月8日	印象と模型(1)	弾性ひずみ，永久ひずみ，各種印象材の弾性的性質の違い	
3	10月22日	印象と模型(2)	各種印象材，模型材の性質と模型の寸法精度との関係	
4	10月29日	印象と模型(3)	歯科用石膏の硬化時間と硬化膨張の比較	
5	11月5日	加熱重合レジン(1)	義歯床用加熱重合レジンの粉液混合物の操作法	
6	11月12日	加熱重合レジン(2)	加熱重合レジンの重合法，重合条件の違いによる重合時の温度上昇ならびに気泡の発生状態への影響	
7	11月19日	常温重合レジン	常温重合レジンの操作法ならびに重合収縮	宮川 行男 赫多 清 後藤 真一 大熊 一夫 相馬 弘子 小出 未来 長谷部伸一 長谷川有紀
8	11月26日	ワックスパターンの変形	放置環境によるワックスパターンの変形量の違い，正しいパターンの取扱い方法	
9	12月3日	歯科精密鑄造(1)	ワックスアップ，スプルーイング，ライナーのライニング，埋没の方法	
10	12月10日	歯科精密鑄造(2)	鑄造方法および寸法補正理論	
11	12月17日	合着用セメント	代表的な合着用セメントの基本的な取扱い方法，取扱い方法の違いが稠度，圧縮強さに及ぼす影響	
12	1月7日	成形充填材(1)	成形充填材の基本的な取扱い方法および基本的な成形充填法	
13	1月14日	成形充填材(2)	異なる条件で成形充填材を填塞した窩洞の辺縁漏洩状態，辺縁封鎖性に及ぼす要因の影響	
14	1月21日	実習総括試験	実習を通して具体的に学んだ内容についての筆記試験	
15	1月28日		(解剖学実習を行う)	
16				

# 専門歯科治療概論

授業責任者：宇野清博

教科書：指定なし

参考書：指定なし

## 一般目標：

歯科における専門的治療を理解するために、日本歯科大学新潟病院の各種特殊外来，センターにおける治療内容，意義，目的に関する基本的な知識を習得する。

## 行動目標：

1. 新潟病院の特殊外来・センターの概要を説明する。
2. スポーツに関連する歯科的問題を説明する。
3. 障害児歯科の特殊性，基本的診療方針と治療システムを説明する。(E-4-4) -①, ②)
4. 歯科診療時の緊張がもたらす弊害とリラクスの効果を説明する。(E-1-3) -(1), (2))
5. 訪問歯科診療の進め方を説明する。(E-4-3) -⑨)
6. 歯科インプラント治療の適応と治療法を説明する。(E-3-4) -(3)-①, ②)
7. 口腔乾燥症（ドライマウス）に関する基本的事項を説明する。(E-2-4) -(7)-⑤, E-2-4) -(10)-⑤)
8. 咬合異常と顎関節症の原因と診察，検査，治療法を説明する。(E-2-4) -(6)-②)
9. 顎変形症の分類，原因，顎変形症に伴う障害，治療法を説明する。(E-2-4) -(1)-③)
10. 口臭の原因と口臭症の分類，診断を説明する。(B-3-2), E-1-6) -(2), (E-4-5) -①, ②)
11. 歯科アレルギー外来の治療を説明する。(C-3-2) -⑥, E-2-4) -(9)-③)
12. 歯周治療の流れを説明する。(E-3-2) -④, ⑤, E-3-3) (3)-②)
13. 変色歯の基本的な対処法を説明する。(E-3-3) -(1)-⑤)
14. 睡眠医学ならびに睡眠時無呼吸症候群と歯科医療の関わりについて説明する。
15. 医科と連携した口腔ケアの重要性を説明する。

## 学習方略：

講義

## 評価方法：

論述試験，客観試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月7日	在宅歯科往診ケアチーム	訪問歯科診療の進め方	黒川 裕臣
2	10月14日	障害児・者歯科センター	障害児歯科センターの特殊性、基本的診療方針と治療システム	島田 路征
3	10月21日	白い歯外来	変色歯の基本的な対処法	海老原 隆
4	10月28日	口腔インプラントセンター	口腔インプラント埋入外科術式と骨移植等の適応症の拡大	広安 一彦
5	11月4日	口のかわき治療外来	口腔乾燥症（ドライマウス）の原因、検査、治療法	戸谷 収二
6	11月11日	あごの関節外来	顎関節症の特徴と原因、診察、検査、治療法	永田 和裕
7	11月18日	顎のかたち・咬み合わせ外来	顎変形症の分類、原因、顎変形症に伴う障害、治療法	水谷 太尊
8	11月25日	いき息さわやか外来	口臭の原因、口臭症の分類と診断	大森みさき
9	12月2日	歯科アレルギー治療外来	歯科アレルギーの検査、治療法	二宮 一智
10	12月9日	睡眠歯科センター	睡眠医学、睡眠時無呼吸症候群との歯科医療の関わり	河野 正己
11	12月16日	口腔ケアセンター	脳卒中を中心とした慢性疾患患者に対する口腔ケア、周術期の口腔ケア、悪性腫瘍患者に対する口腔ケア	江面 晃
12	1月13日	特殊歯周病治療外来	歯周治療の検査、治療法	阿部 祐三
13	1月20日	歯科麻酔・リラックス外来	歯科診療時の緊張がもたらす弊害とリラックスの効果	高橋 靖之
14	1月27日	スポーツ歯科外来、専門的歯科治療概論のまとめ	スポーツに関連する歯科的問題 歯科医学・歯科医の最近のトピックス	宇野 清博
15				
16				

# 医療統計学

授業責任者：石井瑞樹

教科書：はじめて学ぶやさしい疫学 ―疫学への招待―（改訂第2版）・日本疫学会 監修・南江堂

## 一般目標：

保健・医療分野に必要な予防の基礎と応用を身につけるために、広く保健・医療を学ぶ上で必要となる疫学調査に関する基礎を学び、疫学的データの特徴や情報の取り扱い、統計学的解釈と応用技法について習得するとともに、人間集団における疾病の分布と発生要因を研究する「疫学」について理解する。

## 行動目標：

1. 公衆衛生や保健分野に関連する調査方法と統計的分析法を説明する。(B-4-2) -③)
2. 疫学調査から得ることができるデータの種類やその特徴を説明する。(B-4-2) -③)
3. 疫学調査から得られたデータの整理と集計方法を説明する。
4. 度数分布表やヒストグラムなどを用いて、データの分布状況の特徴を説明する。
5. 平均値、中央値、最頻値、標準偏差を説明する。
6. 統計学的検定の使い方、および得られた結果の意義について説明する。
7. 散布図、相関係数、正の相関、負の相関について説明する。
8. 疫学と科学的エビデンス（根拠）の概念を説明する。(B-4-1) -①)
9. スクリーニング検査を説明する。(B-4-1) -②)
10. 疫学の諸指標を説明し、計算する。(B-4-1) -③)
11. 疫学研究のデザインとその利点・欠点を説明する。(B-4-2) -③)

## 学習方略：

講義、演習

## 評価方法：

記述・客観試験，レポート提出，出席状況

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月8日	調査の企画・実施	母集団，標本，調査法，標本抽出法，数量データ，質的データ，質問紙調査	石井 瑞樹
2	10月29日	疫学調査，指標，スクリーニング	調査手順，有病と罹患，スクリーニング検査の要件，敏感度，特異度	
3	11月12日	疫学研究の方法(1)	記述疫学，分析疫学，横断研究，患者対照研究，コホート研究	
4	11月26日	疫学研究の方法(2)	相対危険，寄与危険，オッズ比，介入研究，交絡因子，バイアス	
5	12月10日	データ分布，基本統計量	単純集計，クロス集計，度数，階級，ヒストグラム，正規分布，代表値，標準偏差	
6	1月7日	度数分布表・図の作成演習	度数分布表およびヒストグラム作成演習	
7	1月21日	統計学的有意差検定，相関	有意水準，独立性の検定，平均値の差の検定，相関係数，	
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

# 顎口腔運動制御学

授業責任者：小出 馨

教科書：チェアサイドで行う顎機能診査のための基本機能解剖・小出 馨，井出吉信 編・医歯薬出版

参考書：基礎歯科生理学・中村嘉男，森本俊文，山田好秋・医歯薬出版  
咀嚼運動の生理学・中村嘉男・医歯薬出版

## 一般目標：

歯科領域で対象となる病態診断の基本事項を理解するために，顎口腔運動に関与する器官の構造とそのメカニズムに関する知識を習得する。

## 行動目標：

1. 咀嚼筋，表情筋，前頸筋と顎関節の構造と機能を説明する。(E-2-1) -②，⑤)
2. 咀嚼の意義と咀嚼能力の評価法を説明する。(E-2-2) -⑥)
3. 顎反射の機序を説明する。(E-2-1) -⑦)
4. 咀嚼の神経調節機構を説明する。(E-2-1) -②，④)
5. 舌の構造と機能を説明する。(E-2-2) -②)
6. 嚥下と嘔吐，吸啜の機能とその機序を説明する。(E-2-1) -⑧)
7. 構音器官としての口腔の形態と機能を説明する。(E-2-2) -⑦)
8. 咀嚼筋と前頸筋の下顎運動時に果たす機能的役割を説明する。(E-2-1) -⑥)
9. 顎関節構成要素の下顎運動時に果たす機能的役割を説明する。(E-2-1) -⑤)

## 学習方略：

講義，示説

## 評価方法：

多肢選択・論述試験

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月1日	顎運動に関する筋と顎関節の構造	咀嚼筋と顎関節の基本構造を学ぶ。	吉村 建
2	10月8日	咀嚼の役割と開口反射の機構	咀嚼の役割・評価と開口反射の機構を学ぶ。	佐藤 義英
3	10月22日	閉口反射と咀嚼の機構	閉口反射と咀嚼の機構を学ぶ。	
4	10月29日	嚥下・嘔吐・吸啜・発音・舌運動	嚥下, 嘔吐, 吸啜, 発音, 舌運動の機構を学ぶ。	
5	11月5日	咀嚼筋の機能	咀嚼筋が各種下顎運動時に果たす機能的役割を学ぶ。	
6	11月12日	前頸筋の機能	前頸筋が各種下顎運動時に果たす機能的役割を学ぶ。	小出 馨
7	11月19日	顎関節の機能	顎関節の各構成要素が各種下顎運動時に果たす機能的役割を学ぶ。	
8	1月28日	顎口腔運動制御機能	顎口腔運動制御機能に係わる機構のまとめ	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

# 唾液と唾液腺

授業責任者：梨田智子

教科書：唾液と唾液腺・日本歯科大学

参考書：人体解剖学・藤田恒太郎著・南江堂

口腔組織学・発生学・寺木良巳ら訳・医歯薬出版

基礎歯科生理学（第5版）・森本俊文・山田好秋編集・医歯薬出版

現代歯科薬理学（第4版）・加藤有三ら編集・医歯薬出版

口腔生化学（第5版）・早川太郎ら著・医歯薬出版

ドライマウスの臨床（第1版）・斎藤一郎ら著・医歯薬出版

## 一般目標：

歯科医学と臨床歯科医学を深く理解するために、唾液と唾液腺に関する基本的な重要事項を総合的に習得する。

## 行動目標：

1. 唾液腺の種類，位置，導管，分布する神経について説明する。(E-2-2) -⑤)
2. 唾液腺の発生と組織構造を説明する。(E-2-2) -⑤)
3. 唾液の分泌調節機構を説明する。(E-2-2) -⑤)
4. 唾液腺に作用する薬物の種類，特徴，薬理作用を説明する。(C-5-4) -①)
5. 唾液タンパク質の構造と生理機能および生合成機構を説明する。(E-2-2) -④)
6. 唾液腺疾患である口腔乾燥症（ドライマウス）を説明する。(E-2-4) -⑩-⑤)
7. 唾液腺疾患であるシェーグレン症候群を説明する。(E-2-4) -⑦-⑤)

## 学習方略：

講義，示説

## 評価方法：

客観試験，授業中の観察記録

(単位数：0.75)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	11月26日	唾液タンパク質の構造と機能	唾液腺から分泌されたタンパク質の構造と生理機能を学習する。	梨田 智子
2	12月3日	唾液腺の解剖	唾液腺の解剖学的位置関係と導管系ならびに支配神経を学習する。	影山 幾男
3	12月10日	唾液腺の発生および組織学	唾液腺の発生過程と組織構造を学習する。	横須賀宏之
4	12月17日	唾液分泌調節機構	唾液腺の神経支配と唾液分泌中枢、唾液腺に対する自律神経作用を学習する。	石塚 健一
5	1月7日	唾液腺に作用する薬物	唾液分泌を促進あるいは抑制する薬物を学習する。	仲村健二郎
6	1月21日	唾液の臨床(1) 口腔乾燥症	唾液腺疾患である口腔乾燥症（ドライマウス）の臨床を学習する。	戸谷 収二
7	1月28日	唾液の臨床(2) シェーグレン症候群	唾液腺疾患であるシェーグレン症候群の臨床を学習する。	
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				